平成22年3月10日発行　毎月1回10日発行　第63巻第3号

日本消防

- 第62回日本消防協会定例表彰式を挙行
- 第22回全国消防操法大会出場順位の抽選結果について
- 第14回消防互助年金海外視察の参加者募集！

3
2010

日本消防　CONTENTS

2010 3
Vol.63 No.3

口　絵　第62回日本消防協会定例表彰式を開催　H22.2.10　ニッショーホール
　　日本消防協会理事会・代議員会を開催　H22.2.10　於　日本消防会館

巻頭言「消防団　地域の安全安心の要！　活性化への取り組み」
……財団法人　群馬県消防協会　会長　大澤　正明 ……1
第62回日本消防協会定例表彰式を挙行　平成22年２月10日（水）……日本消防協会 ……2
財団法人日本消防協会及び全日本消防人共済会の役員会議の開催 ……日本消防協会 …16
都道府県消防協会事務局長会議の開催と第22回全国消防操法大会の抽選会を実施
……日本消防協会 …18
第９回消防団幹部候補中央特別研修開催について ……日本消防協会 …19
住宅用火災警報器の普及状況の推計結果（平成21年12月時点）……総務省消防庁　予防課 …22
東西南北（沖縄県）珊瑚に囲まれた美しい島の防災リーダーとして！
……久米島町消防団　団長　仲地　雄二 …24
東西南北（福井県）伝統「走りやんこ」を守り抜いて ……勝山市消防団　団長　米村　敏男 …26
東西南北（福岡県）「平成21年７月中国・九州北部豪雨を体験して」
……福智町消防団　団長　中村　博樹 …28
シンフォニー（山形県）「女性消防団発祥の地　さかた」
……酒田市女性消防団　団員　備前　利恵 …30
自衛消防隊「消防分団として出動！！」 ……大阪府摂津市消防団　団長　前川　忠義 …32
平成22年度　第14回消防互助年金海外視察の参加者募集
「北欧の大自然美と高度な文明にふれる旅」……日本消防協会 …33
小中学生への防災教育の推進～防災教材「チャレンジ！防災48」の活用について～
……総務省消防庁国民保護・防災部防災課　金子　洋 …35
救急安心センターモデル事業の実施状況 ……総務省消防庁　救急企画室 …38
消防団活動への理解と協力の呼びかけ ……総務省消防庁　防災課 …41
消防研究センター等の一般公開のお知らせ …総務省消防庁　消防大学校・消防研究センター …42
林野火災の防止 ……総務省消防庁　特殊災害室 …43
消防互助年金制度～発足25周年キャンペーン ……日本消防協会 …44
消防団の広場（岡山県）「地域と消防団」……和気町消防団　団長　坂本　延夫 …45
うちの名物団員 ……46

４月の日本消防協会関係行事
編集後記

表紙写真説明

五枝の松＜国指定天然記念物）

古くからこの地にリュウキュウマツが植えられていたとされ現在のものは1839年に二代目として植え換えられたとの記録があります。通常の松は成長につれ上に伸びますが、幹周り約4.3mに対し高さが約６mしかなく、枝ぶりは特に見事で根元から太い枝が石を枕に地表を這い、その面積は約250㎡にも及びます。美しさと風格を称えられ琉歌にも詠われています。

沖縄県　久米島町

第62回日本消防協会定例表彰式を開催

平成22年２月10日（水）　ニッショーホール

日本消防協会理事会・代議員会を開催

平成22年２月10日　於　日本消防会館

巻頭言

「消防団　地域の安全安心の要！ 活性化への取り組み」

財団法人　群馬県消防協会　会長　大澤　正明

群馬県は、新幹線や高速道路など高速交通網の結節点に位置し、首都圏から100㎞圏内と交通アクセスが良いという恵まれた環境にありながら、草津、伊香保、水上など多くの温泉地があり、県土の約７割を占める森林、利根川や尾瀬国立公園など豊かな自然環境にも恵まれております。

ここに住む200万県民を守るため、38消防団12,126人が消防活動に携わっております。

言うまでもなく消防団は、生業を持ちながら火災や各種災害にいち早く駆けつけ消防職員と連携した消火、救助活動を行うとともに、火災予防パトロール、応急手当の普及啓発、高齢者宅訪問による防火啓発など、地域における予防消防活動にも大きな力を発揮しております。

本県は災害が少ないと言われておりますが、平成19年度に県西部で発生した豪雨災害、毎年発生する林野火災、さらには浅間山の噴火などの際は、消防団の献身的な活動が被害の拡大の防止などに大きな力を発揮しており、県民の消防団に寄せる期待は極めて高いものがあります。

しかしながら、現在、消防団を取り巻く環境は、全国的に団員の減少やサラリーマン化による活動の制約など、取り組むべき課題が山積しております。

本県においても、団員数は10年前に比べ約1,300人にも減少しておりますし、団員の職業も、かつては自営業が中心でしたが、現在では約７割が被雇用者で占められております。消防団員の減少防止、消防団の活性化という課題は、群馬県消防協会のみならず、他県の協会でも大きな問題となっている事ではないかと思います。

このような中、当協会では、まず消防団を県民や事業所の皆様に理解していただく事が第一と考え、広報誌、ＦＭラジオ、ポスター、パンフレットなどを活用し、あらゆる機会をとらえ、県民に消防団への理解を深める活動を行っています。特に、新たな試みとしては、地元紙の裏一面すべてに消防団の活動や団員のインタビューなどを掲載したり、消防本部や女性防火クラブと連携して、消防団員の募集イベントを開催いたしました。また、団員の確保には企業等の協力が不可欠であることから、市町村が実施する「消防団協力事業所表示制度」の普及促進を支援しています。

さらに現在の消防団の活性化のため、消防団活性化事業を行うために造成した基金を活用して、火災予防や消防団員募集のためののぼり旗作成や、団員とその家族のふれあい事業、親善スポーツ大会などの経費を助成し、活性化を図っています。

今後も、地域の安全安心の要である消防団を積極的にＰＲするとととともに、支援して参りたいと考えております。

第62回日本消防協会定例表彰式を挙行

平成22年２月10日（水）　　財団法人日本消防協会

平成22年2月10日（水）日本消防会館ニッショーホールに於いて、第62回日本消防協会定例表彰式が挙行されました。

表彰式には、総務大臣（代理 渡辺総務副大臣）、江田参議院議長、河野消防庁長官をはじめ、全国からの受章者と関係者、国会議員をはじめとする来賓の方々を含む約600人の方々がご出席されました。

式は高木日本消防協会副会長の開式の辞で始まり、国歌斉唱、消防殉職者への黙祷、片山日本消防協会会長からの式辞と進み、特別表彰「まとい」、特別功労章が各受章団（員）、受章者に片山会長から表彰状等が授与され、表彰旗以下の表彰については、各代表者に授与されました。

片山会長式辞

総務大臣祝辞（代理 渡辺総務副大臣）

永年にわたる功績が認められ、表彰受けられた団体及び個人は次のとおりです。

特別表彰「まとい」	10団	精績章	2,221名
特別功労章	10名	勤続章	7,374名
優良消防団（表彰旗）	40団	優良婦人消防隊（表彰旗）	17隊
優良消防団（竿頭綬）	83団	優良婦人消防隊（功績章）	22名
功績章	930名	都道府県消防協会等 役職員永年勤続者表彰	3名

特別表彰「まとい」

特別功労章

優良消防団（表彰旗）

優良消防団（竿頭綬）

功績章

精績章

勤続章

優良婦人消防隊（表彰旗）

優良婦人消防隊（功績章）

都道府県消防協会等役職員永年勤続者表彰

第62回　日本消防協会定例表彰者名簿

特別表彰（まとい）　10団

都道府県名	消防団名
宮城県	岩沼市消防団
山形県	上山市消防団
東京都	日本橋消防団
千葉県	いすみ市消防団
愛知県	知多市消防団
兵庫県	三田市消防団
奈良県	大和高田市消防団
鳥取県	日南町消防団
高知県	仁淀川町消防団
熊本県	菊池市消防団

特別功労章受章者　10名

都道府県名	役職名	
北海道	北海道消防協会副会長 北見地区消防組合北見消防団団長	飯田安藏
青森県	青森県消防協会会長 五戸町消防団団長	川﨑七保
新潟県	新潟県消防協会会長 長岡市消防団団長	櫻井　守
長野県	長野県消防協会会長 御代田町消防団団長	倉坂正道
石川県	石川県消防協会会長 小松市消防団団長	北出隆一
岐阜県	岐阜県消防協会会長 美濃市消防団団長	堀端幸和
岡山県	岡山県消防協会副会長 岡山市消防団団長	妹尾弘行
香川県	観音寺市消防団団長	近藤辰一
熊本県	熊本県消防協会会長 菊池市消防団団長	村上忠吉
宮崎県	宮崎県消防協会副会長 延岡市消防団団長	福島宏一

優良消防団（表彰旗）　40団

都道府県名	消防団名
北海道	深川地区消防組合
〃	妹背牛消防団
〃	釧路東部消防組合釧路消防団
〃	東十勝消防事務組合
〃	豊頃消防団
青森	田舎館村消防団
岩手	宮古市消防団
宮城	仙台市秋保消防団
秋田	藤里町消防団
山形	飯豊町消防団
福島	南会津町消防団
新潟	南魚沼市消防団
東京	牛込消防団
神奈川	横須賀市消防団
埼玉	川口市消防団
群馬	吉岡町消防団
茨城	高萩市消防団
栃木	小山市消防団
山梨	忍野村消防団
長野	大鹿村消防団
福井	若狭消防組合小浜消防団
石川	七尾鹿島広域圏事務組合 第1消防団
富山	朝日町消防団
愛知	名古屋市日吉消防団
〃	岡崎市連尺消防団
岐阜	揖斐川町消防団
大阪	箕面市消防団
兵庫	姫路市香寺町消防団
奈良	下市町消防団
滋賀	西浅井消防団
和歌山	日高川町消防団
島根	大田市消防団
広島	広島市西消防団
徳島	阿波市消防団
香川	宇多津町消防団
愛媛	東温市消防団

高知	本山町消防団
長崎	壱岐市消防団
福岡	北九州市若松消防団
佐賀	唐津市呼子消防団
宮崎	三股町消防団
鹿児島	十島村消防団

優良消防団（竿頭綬）　83団

都道府県名	消防団名
岩手	大船渡市消防団
〃	雫石町消防団
〃	釜石市消防団
宮城	加美町消防団
〃	美里町消防団
〃	栗原市消防団
秋田	八郎潟町消防団
〃	にかほ市消防団
〃	横手市平鹿消防団
山形	山形市消防団
〃	山辺町消防団
〃	戸沢村消防団
福島	中島村消防団
〃	湯川村消防団
〃	相馬市消防団
新潟	長岡市消防団
〃	見附市消防団
〃	小千谷市消防団
東京	渋谷消防団
〃	立川市消防団
神奈川	相模原市城山消防団
〃	大磯町消防団
〃	中井町消防団
茨城	つくば市消防団
〃	潮来市消防団
〃	茨城町消防団
栃木	日光市今市消防団
〃	野木町消防団
〃	矢板市消防団
山梨	甲斐市消防団
〃	北杜市消防団
〃	小菅村消防団
長野	南牧村消防団
〃	原村消防団
〃	平谷村消防団
石川	内灘町消防団
〃	穴水町消防団
富山	立山町消防団
〃	舟橋村消防団
三重	尾鷲市消防団
愛知	名古屋市千石消防団
〃	名古屋市水上消防団
静岡	伊東市消防団
岐阜	岐阜市中消防団
岐阜	岐阜市南消防団
〃	岐阜市北消防団
京都	京都市右京消防団
〃	京都市西京消防団
大阪	守口市消防団
〃	四條畷市消防団
兵庫	神戸市灘消防団
〃	神戸市北消防団
〃	姫路市姫路西消防団
奈良	山辺広域行政事務組合天理消防団
〃	葛城市消防団
滋賀	近江八幡市消防団
〃	竜王町消防団
和歌山	御坊市消防団
〃	高野町消防団
徳島	神山町消防団
〃	小松島市消防団
香川	丸亀市消防団
〃	小豆島町消防団
愛媛	西条市消防団
〃	松山市消防団
〃	八幡浜市消防団
高知	高幡消防組合椿原消防団
〃	日高村消防団
長崎	島原市消防団
〃	東彼杵町消防団
〃	新上五島町消防団
福岡	篠栗町消防団
〃	大刀洗町消防団
〃	川崎町消防団
佐賀	嬉野市消防団
〃	神埼市消防団
〃	唐津市七山消防団
宮崎	宮崎市消防団
〃	高原町消防団
〃	新富町消防団
鹿児島	東串良町消防団
〃	屋久島町消防団
〃	龍郷町消防団

功績章受章者

930名

北海道

佐藤直一
成田勝吉弘信
實藤幸正治明
西澤公末豊司
武山橋弘豊治勝
高神野西藤岩國一男彦
大齊藏重野哲紀幸夫
今中山間英一隆陽
本上田門田村越部元久
長成西細阿島橋釜紀春
大小藤原山田中岩小今黒有平清赤林田内所司瀬泉野宮岡田川松正正政弘詔清光富恒三広美十四樹彦雄雄登

青森

坂本忍
木戸鐵雄
佐々木田後貞隆洋
山越岩谷田文勝誠男
成千代中谷野弘一義
向赤駒磯尾加内小成田司石嶺野野藤城泉田村動力人久文清富博郎一男
佐々木隆慶清喜誠勝三

岩手

雄公男夫七豊正一一男男悦是二一康男一夫幸昭美巳
幸善靜定平征慶松和守栄規孝教信幸佐靜繁義勝辰
山口藤木田橋原糠山藤田田橋田原津原橋藤藤田村地畑内
佐藤佐々木鎌高菅大鹿真佐和細高千小梅藤高佐伊泉上細川谷子原
文則優雄一敏士治昇清悦孝彦義男昭一雄男一朗男
和政賀仁勝一董武忠次三章俊道賢一秋
千
水平星菅跡引高大鎌菅安横高佐高佐鈴小阿菅吉
戸山澤部地城村田原部山橋木木松部原田
藤
佐
山
佐々木
大
齋
藏
今
中
本
上
長
成
西
細
阿
島
橋
大
小
藤
原
山
田
中
岩
小
今
黒
有
平
清
赤

秋田

割石博之
鈴木由太郎昭
菅能原博春
能白清良勝
白伊藤壽信
伊大石

山形

高野英昭
武田正康悦
佐々木良行
佐竹邉厚
渡邉邦浩和
西塚好満
遠藤正行
井上広年
海老名正好
渡部川澤一
星澤澤一
冨木沢明
長本藤敬
矢長橋佐持薫
橘佐劔成澤修
成菅原昭
佐藤
齋
久
金
櫻
藤
松
田
子
田
孝良敏誠恒一常
忠
康
喜
秀
正
広
正
名
老
上
藤
部
川
澤
澤
木
本
藤
藤
原
藤
松
田
子
田
喜
秀
康
忠
孝
良
敏
誠
恒
一
常
夫
夫
一
一
行
年
好
一
一
明
敬
薫
一
修
昭
薫
喜
一
広
夫
夫

福島

阿部隆明
丹野駿一次
吉野信孝博
今井清裕
半澤正夫
菅野和夫
桑原幸一
斎藤修
水野省
佐久間一文
村上屋
土山田
永田谷
安常瀬
藤
隆
駿
信
清
正
和
幸
一
俊
秀
省
一
文
広
仁
芳
明
一
次
孝
博
裕
夫
夫
郎
一
雄
一
憲
久
美
孝
雄

新潟

柏木柏雄
小林川正幸
笹平正栄
伊藤正修
米田牧吉明
坂藤尚登
加井本寿康
元關島保藤合竹原林部山村村雲藤山原辺邉上藤田田藤田林井又崎
小新佐阿落大桑小阿丸上上南佐村桑渡渡井加山池佐飯中酒倉山
三郎行
啓
和昇秀保宏秀文一利定賢
正紀正
悦邦清義敏正義寛良
三木朗郎文正俊郎明仁治一

東京

田中一彦
竹本章治
毛受重俊三
武藤宮常三郎
小原山田柴内嶋藤口庭部村邉栄瓶形邊水川瀬野直
横安
原鹿
大河
原野
岡阿
中渡
中二
小田
清宮
廣西
安
岡
阿
中
渡
中
二
小
田
清
宮
廣
西
部
村
邉
栄
瓶
形
邊
水
川
瀬
野
直
男
一
郎
三
夫
人
堂
夫
機
男
治
之
淳哉
光
弘
史
功
敦
樹
喜
美
利
孝
一
敏
和
隆
重和
駒古
形
家
雄彦
昌
信
秀
一
政
太
憲
信
敏
正
清
和
忠
千
一
宏
義
文
東
博
義
朝
健
一
雅
泰
倉井村澤高中井岡
佐藤下保
川口
小今島野大山抜冨佐鴨金石山
日出男
昇
勉
浩
馨
光
彦
治
彰
雄
繁
昭
弘
朝
和
健
一
雅
泰
倉井村澤高中井岡
佐藤下保
川口
小今島野大山抜冨佐鴨金石山
日出男
昇
勉
浩
馨
光
彦
治
彰
雄
繁
昭
弘

群馬

細丸柳石堀櫻原橋関堀高
矢木澤坂越井田口本橋
信仁
今朝
博健武博知俊
昇一一賢雄士二志志昭晴

千葉

本伊浅林勝横松岩由金河石山岡瀧平高林飯佐秋鶴細椎米若中石安笹山
木東井
田山丸瀬井子田川口野田山柳田間山岡田名倉菜村井田谷中
久
信弘章光
昌
信秀一政太憲信敏正清和忠千一宏義文東博義
夫樹一伸実美昇彦一弘実巳司一幸博智一茂重史治男之史雄雄之稔則裕

神奈川

山永小石青小植安根臼武渡三櫻工嘉田野
本井澤井木野草藤本居野邊木井藤山代田
建輝政智裕
定雄四郎章亘
忠政健一松和俊準襄忠
明
彦一郎夫
男博雄宏次介
秋貢友光誠政正哲
雄男光明一雄幸也
田
杉
道祖土田根島賀枝
藤
内
關
野
須
藤
坂
田
秋
雄
男
光
明
一
雄
幸
也
田
杉
道
祖
土
田
根
島
賀
枝
藤
内
關
野
須
藤
坂

埼玉

春一
幸幸
小原
篠原

茨城

男義照夫男衛一之一方浩光透弘一洋保男一薫明男澄郎納巳一一昇寛
三隆信信幸吉潤博祐直利悦亮義武勝敏
川崎藤塚谷重部藤山代原森林瀬崎川池本持木星藤弓江河賀木崎口井
滑川
川崎
佐藤
飯塚
銭谷
安重
磯部
皆藤
込山
藤代
栗原
大森
小林
早瀬
宮崎
長谷川
菊池
松本
倉持
鈴木
髙星
斉藤
武弓
堀江
大河
糸賀
鈴木
松崎
谷口
川井

栃木

一一文明道貞美幸男重雄二一一一一郎
陽誠裕弘好
川沼本
石菅
橋畠
鶴見
渡邉
興野
手塚
相馬
高山
森戸
佐藤
河和
柏瀬
柿沼
藤田
佐藤

山梨

彦文夫弥雄夫
満良二浩嘉宜
木宮水田原澤
茂雨
穴水
野田
篠原
小澤

修嗣和明幸吾治三秀二
朝茂
今朝昭建藤光英
川村
市川
吉原
桑原
霜村
大島
梅谷
渡邊
小俣
原田

長野

成人透一彦雄彦嗣男康学幸能繁浩幸範次悟晴一雄義好幸司次治樹二夫博治則吾
元岳
幸一
由井
宮入
依田
土屋
千葉櫻
重田
牛山
矢崎
日達
北原
酒井
藤田
小林
熊谷
滝澤
島崎
柴原
田代
鈴木
古屋
松下
丸山
大倉
波多腰
若林
葦沢
若林
山本
関谷
小林
栗林
髙木
児島
齊藤
齋藤

福井

一雄雄一人猛博
建幸成紀義
内田
服部
道谷
松村
江戸
田上
辻本

石川

郎太郎一男
伸俊康
舘
尾山
小坂

洋人一
俊寛耕
農藤
池端

富山

夫朗由義拡夫平稔雄人二
文郁宣正
田橋
中林
木戸
高島
山崎
熊西
宇津
前田
中谷
藤盛

三重

三二彦己武雄佳則彰一雄昇英
欣正和喜代
岡田
中嶋
加藤
清水
中條
西山
筒井
宮本
縄手
木下
西田
谷口
橋本

愛知

春文治也彦一哉克郎夫弘幸弘二一成一學之哉夫治倫好広朗武弘
義賢哲
川田
安井
森川
内田
成瀬
種戸
大島
江崎
鈴木
新實
樋口
細井
三浦
深津
西川
平光
前畑
稻葉
伊藤
天野
猪子
鈴木
山田
町田
牧野
小崎
宇佐見
森田

治
憲
藤
伊

静岡

雄仁司勲一学雄章
三
昭
純
田
屋
和
尾
齋藤
山口
加藤
佐野
矢郷
片岡
池田
草谷
秋山
青島
大石
浦野
鈴木
大橋
小野
岡部
朝倉

岐阜

司勝一助治一志浩治士税彦雄介弘之修也彦隆也実
榮
正
盛之
賢
清
高
浩
高
主
和
金
大
忠
康
腰
口
谷
村
村
神
石

京都

夫二治仁治博之男男泰治男
孝
淳
昭
正
英
康
泰
泰
良
光
恒
夏
田
垣
出
本
林
西
村
西
内
西
嶋
尾
松
南
有
栗
中
藤
奥
海
中
馬
櫻

茂学喜介二司
田
村
高松
片山
田村
木村

大阪

義清登博雄郎朗昭恒
忠
下
川
藤
根
前田
橋田
三浦
畑中
馬場

兵庫

明司司信弘進郎清晴忍男男清夫昭治久一生司夫之治司幸生一生広康泉夫一稔雄雄裕洋一章徹司
和
爲
博
秀
勝
三
章
幸
鉄
徳
正
健
徳
真
雅
康
道
泰
隆
敏
幸
洋
憲
吉
智
良
雄
志津
道
一
稔
日出
勝
田
本
田
村
松
山
村
村
木
芦田
田村
高松
片山
田村
木村

奈良

成佳義充孝雄高典好
英
成
徳
良
義
利
祥
正
完
岡
田
西
川
山
合
橋
仲
盛
竹
岡
下
西
桐
出
岡
田

滋賀

勇夫二司夫好郎雄彦孝
武
賢
孫
一
三
小次
和
武
俊
目
林
荻
西
宇
北
中
藤
小
一

和歌山

造治夫央一生年男廣次夫信則
啓
泰
照
章
善
道
喜
規
義
惠
邦
良
隆
田
川
瀬
岩
石
多
吉
遠
林
田
田
田
湯

鳥取

夫幸昇明行久
悦
和
公
和
為
根
村
浦
徳
尾
船

島根

二良正好裕司延志之治之清典
聖
崇
延
克
正
喜久
武
紀代
恭
和
俊
梅
小
長谷
池
松
北
山
石
村
須
室
弘
松

竹下庄太郎
馬場　勝
松本明雄
鈴木健士
入江政彰
濱本義則
中釜英明
原　正明

宮崎

能勢武彌
長谷川照男
井上忠明
松浦弘一
北村正幸
外村　昇
中村修身
高原秀行
川崎広隆
冨山康雄
宇和田好美
吉田　宝
荒木　清
矢野洋一
一水輝明
佐藤高明

鹿児島

関　修三郎
本村　修
萩木場光三
山下裕二
福留　優
松永貞人
宇都　潮
薬師寺正司
上村健一
井手迫正昭
厚石賢太郎
新鷲光昭
松元正明
宮原清登
玉利幸治
中村　孝
萩之内弘三

沖縄

具志堅政明
平安名常明
石川春雄

佐賀

吉谷鎮優
中島義弘
楢崎元也
立石誠一
梶山義人
金丸正志
太田俊活
江口　城
前田秋信
草場俊二郎
中村和喜
村島秀典
馬場　茂
山口　修
古賀健則
溝口正敏
山口八州男
百崎善夫
池田與士文
中嶋俊幸

熊本

末松正博
原　一幸
松永宣男
一明　司
河野富寛
稲葉伸二
園田幸二
園田長男
大仁田　泰
吉本光康
竹下貴丸
宮部光輝
谷川義男
山川　武
木下豊則
山下和則
池崎勝義
若杉俊英
蒲嶋　修
古川慎嗣
有働功誠
中林洋一
清水浩幸
西村栄敏
山本章博
境　康宏
岩下道幸

田口明正
髙橋　正
原田成信
中野篤司
野原正夫

福岡

吉村壽夫
浦塚洋男
城戸仁好
髙野英機
篠宮　隆
冨田栄一
山本康弘
下ノ村雄治
下川英四
新里正雄
榎本尚人
渡邊順市
片峯直志
山口信俊
後藤東彦
角　圭吾
山口正成
栗原吉平
髙取和生
藤本　豊
原　準一
安藤征洋
塚本勝憲
奥永栄一

大分

御手洗純男
首藤忠良
佐藤麻雄
姫野正一郎
淵　忠義
尾崎謙一
廣池和則
野村美好
坂本　章
佐藤利文
大内義光
河津明雄
安東喜和二
崎野正信
岩尾喜一郎
野村　香
米澤洋治

愛媛

井戸善昭
細川勝義
森　光夫
大塚邦明
高橋　誠
山本久雄
清水勇二
嵜　八神
矢野勝幸
三好一正
山瀬忠弘
竹本吉雄
渡辺正弘
竹場　央
山川彰夫
伊藤秀紀
木藤　清
塩見典久
西原忠男
菅　壽志
石本忠正

高知

太田博久
宮本慶澄
山中次男
新谷和正
小松寛之
三谷賢一
西森歳勝
國見安行
森　一夫

長崎

松永初彦
福田正博
松崎敏洋
寶亀　勇
松本秀喜
藤山博記
山浦弘之
白川木星
春野留二
吉山政人
八坂政治
阿比留和男
庄司和人
江頭義範
濱野俊典

岡田孝則
安井一壮
空　數則
佐々木　勉
作田髙義
積山政則

山口

平岡順一
岩本重樹
武村一郎
大林育美
伊東　優
河口　悟
藤村正治
阿武成治
河島　實
守田福光
志村紀年
友弘　啓
惠本久登
蔵本晴治
嶋村健二
向山和實

徳島

小林康伸
金澤二郎
中川　正
楠本和敬
尾田信義
池下嘉郎
村上浩一
大塚敏之
大坪聖典
廣澤誠治
谷口　晃
安井勢治
岡本秀文
安藝　肇

香川

糸瀬繁夫
德田哲男
宮武利幸
山本守夫
鏡原榮一
横関佐太郎
谷口和久
山下　強
片山隆二

岡山

芳上陽平
山口正義
安岡正治
村本泰三
石黒　誠
飛峪信介
湯原堅治
下山雅庸
三宅省吾
南　眞司
生口秀樹
亀川啓文
遠部　堅
春名貴之
藤田眞樹
川崎一則
湯浅秀明
杉山　忠
水内孝雄
高木幹夫
小畑　始
田淵安男
中塚克己
山本　豊
前田忠英
栢野　豪
團迫良郎
祇園和夫
金中英明
窪津順一
古山　司
山本教司

広島

土井長　一
梶川正文
皆田久人
中田重男
山口丈紀
池田和夫
青木亮介
沖田　渉
林　殷司
下宮弘行
松島繁人
新山義登
山本廣治
谷川清壽
末長寛文

精績章受章者

2,221名

北海道

齋藤政俊
三上　勉
藤吉　茂
上杉茂仁
松井英樹
細川雅彦
奥山英紀
小林幸治
安澤正美
横山義昭
氏家忠幸
髙野俊和
吉成茂明
桑折英俊
西山修次
岩佐庚一
五十嵐正孝
西村博明
松永継男
吉田　隆
山崎直樹
安田幹夫
今井　茂
丹羽　隆
福嶋　正
加藤義則
白川幸治
澤田正徳
本郷　茂
村田秀之
小石周司
大塚泰淳
本間憲一
天間　隆
加納孝雄
坪田和昭
岩本信二
大家熊雄
内山　廣
佐藤義孝

充護登行一寛雄幸明介一一次光　　治夫作郎治廣守一司男久夫一秋二広一彦伸郎正光郎孝浩拡一夫雄治利一雄仁治久司雄男満明信仁啓透
　　直仁昌一雅豊宥健良栄直
葉南藤垣葉越木村部山田田樫部
秋長遠石秋舟鈴木阿青生戸冨渡

福　島

征和忠勝傳正　收忠義　壽太和良義謙和弘徳太一
部川齋田内木沼野野藤本坂井本井木内下木尾藤田沼瓶辺田目井藤村田子湊田中谷川藤山嶋川島森木森
阿皆安安大髙柳丹菅佐橋松石橋今鈴野日鈴浜遠添柳二渡吉生天赤須海添兼小吉田円荒佐檜小秡君大鈴菅

司郎徹郎藏郎一悦吉一　　一正郎幸夫昭誠等重康光巳誠男男稔悟志郎也淳芳彦男貢一二雄雄樹幸博夫二幸幸春茂彦行雄学宏一明薫哉二之
敬二　一太忠長太養眞孝　　秀好敏和達秀　一忠政和　君泰　正勝哲　孝信和　幸祐多美美登秀義政丈正数昌正　正和和　敬正　欽英髙
井池渡原藤原喜崎藤藤
藤菊樋菅佐榊榮柿佐佐

山　形

荒武齊鬼庄長松太大高髙井佐松須高柳森佐佐大二福佐日阿齋今江石伊小大菊安竹小吉菅百高斎澁鈴富松今村今
木田藤海司岡田田田嶋橋上藤田藤橋生　藤藤場戸井藤露部藤井口黒藤杉滝地部田島田原瀬橋藤谷木樫浦井上井

敏一雄志次美好雄弘之藏雄尚嗣宏広夫強孝一一行郎　　昭男男夫文博隆藏明司一夫弘雄夫一勉美彦和雄市夫弘彦隆郎健悦男一藏弘茂司一
幸賢久久清一直勝正満善孝正富　忠睦　秀良久憲一
田藤藤谷原木藤橋藤木葉松橋藤藤形橋部田田山藤橋
須遠伊水菅佐々佐高後佐々千小髙齋遠尾髙阿須奥横佐高

秋　田

戸木北柴石浅菅塚大小山木古齊浅谷吉森鈴山足小佐々遠阿伊土鈴髙佐佐五伊佐斎三
川村林田井利原本塚玉田元戸藤野口成合木縣利池木藤部藤田木山藤藤嵐藤藤藤浦
和昭一直重久鋼義廣幸俊敏和龍良　和一頼幸新幸信一　喜一藤芳　養　慶由

智明嵩至明見功実博一貴一一男逸市孝優光雄夫司久志二繁　　広則二美夫信秋勇稔一夫三一夫一明昭雄夫重男夫一肇夫雄悦男治勝一茂新
武　孝　勝敏謙昭賢伸初慶匠　俊文信優武忠浩

宮　城

遨邊葉橋原地原田部村橋本原村木本賀間下又澤保　田沢葉
渡渡千高菅本松武阿谷髙松小中佐々橋芳風宮弐田濱舘永野千
庄子目野谷藤友江橋藤子藤松藤仲林々川藤藤　股辺部谷坂谷橋藤橋内塚野神
庄湯小熊佐大徳髙加庄齋小伊田小百及佐加森猪渡阿熊早渋高佐髙大道今三

岩　手

夫夫男郎樹造男夫次一幸満義一昇五夫昭次人男一男勝雄謙夫　　三勝実男郎豊哲修明司雄朗志夫卓一雄一男男司平治衛郎由勝一男男憲克
春恒三七春正重晴昇淳光國隆　精克勝亮直信健孝利悦　繁　繁敏　正金太　正　壽範政俊　康幸憲岩朝直　堅　悦忠　幸昭一繁正
林館越村川谷山澤下　屋藤杉田藤屋木藤木中田田城野井谷谷
森大吹田片米畑寺木森高近小太工澁佐工佐畑袴和内今福熊高　根藤三加菊藤新菊千高古藤伊髙髙廣湊小菊菊菅佐阿齋髙佐佐村阿石山三
　子澤浦村池岡沼池葉橋舘原藤橋橋崎　倉池池原藤部藤橋藤藤上部倉本宅

雄一夫司志信一郎男幸義朗穂守司一博明義夫志雄栄敬夫男勝男道男一司二行一雄雄敏廣藏憲　　保貞夫治彦堅隆悦治一功夫雄雄孝正雄文
和誠國守仁良修新雪義政哲邦　晃新　博勝良昌秋　康光君秀幹重三紀省丈信良徳富貞公省良　七敏俊喜代克　清潤喜好聖虎勝悦博鶴幸俊

青　森

川佐川立中松川山山部又藤月本田生藤木田田橋川上原島勢藤田永林本木村田田井和地谷越鍋
中土長谷　　崎村塚木藤浦橋石岡森髙舘名間井澤内田
足山兼及大杉伊鹿佐野岩成栗佐杉村塚高西三三西伊佐黒武小野鈴高寺窪平大菊熊川田　川濱丁佐々近梶八木瀬浅福髙大新蝦中櫻中小澤山山

仁洋彦之行雄雄喜寿浩志尚清雄秀紀幸明昭勝明一彦登広稔清也
一政伸敏秀文正和　聡浩　岩利光敏　良　英栄晴康隆　卓
田　水岩田橋井村井藤村藤島井澤沢藤里尾山橋川瀬場木藤藤
林原林清黒石高桜田櫻齋中伊小武黒中齋中横俵高大小河相茂近斉

二彦　男暁久明章幸和弘幸郎雄男光芳夫衛一行二明郎行司一明繁一明一司学藏光夫忍修昭明男嗣一博明郎孝二一司一實也
堅一　久　俊　友良佳茂記三久三千重正正庄雄隆雄義二孝忠良義　裕　誠兼　光義晴　豊義光輝好敏敏庄次榮賢敬伸健　英　公市之雄
池島　藤田林上野井川岡田井口島井根木田畦野谷木木訪矢　葉見林田田江熊山野野口條内井井村人川丸藤林條野藤澤木　孝和幸
菊小

埼　玉

原齊川若井岡荒平福内荒山田新関鈴関中島染並青諏強臺青浅神岡富堀大杉前吉関西武藤今岡川小松佐小北澤佐黒村
清森井猪

千　葉

佐石高清田田石木土服内田林小杉飯木森眞大杉皆皆大木橋髙椎横菅板
薫雄一文一德男志和則宏幸行弥平彦寿志夫弘雄也幸一司和良明好代雄
岩新博雄敏時清功友和伸弘　昌芳　仁幸康正哲宏
藤橋坂宮保中井内橋部田中　暮浦田村　通熊山川川　塚　武善重正美文和
内本橋名田生倉

群　馬

武郎夫一行一年巳昇弥也行晴清夫市彦正
好晴　孝
茂淳幹敦　拓達伸宗　好貢勝
田中野　牧田場田野木上水林田瀬田山山
吉田内林小内馬鈴高鈴村清小島柳前奥奥

神奈川

須藤　徳　雄一二正
松岡野泉元嶋溝田山崎川塚藤子川中本岸宮井山村川原藤　野橋渡泉川木藤崎中喜田田藤澤村
星小秋小横廣中岩市戸加金石田山根小大西中小小伊原山船石小早溝遠神田小戸内加小中
國吉　勝光尚豊　満博正　峰　治秀幸勝幸和政史和和弘藤　加寿　喜一勇和正　拓賢彰克
治郎男樹彦清明男三基剛康実男明二則成久己敏雄彦巳一剛彦暁一直治浩範功路吾夫明

政健明一治雄美茂一豊一人治満志夫幸
一　利晴義富士正　建　浩雅英博正健久

東　京

高奥小六小山井長平北小下島中小栗君本亀牛小田吉石梅赤吉新田小鈴岩押千石関朝海老村高小佐
横宮山村黒小武猪青中小宮中北石大数
山川岸松川林田又代村島越楯澤川瀬馬
橋田西木堀本口内林嶋林山田村林原塚多田久橋村田原原石田谷中泉木本田明川口倉澤野野島伯
靖久誠眞　昭邦徹　智良勇良　正康浩義一節房謙和和壮光武　耕清光光政友和眞一成俊　広恭
勇勝二一章彦彦夫渉明夫一一功幸二一博良男義次生男一政雄清也美雄弘秀子男司夫行和大明央
本
太

彦弘司典弘夫文伸義栄浩市弘力雄栄好榮明則郎彰洋昭士郎夫一修一稔克志幸一郎幸則芳敏武和明喬敦人郎努旭人稔人雄四雄作一和幸幸正
正和哲和泰富和清勝善一仙俊　勇正美　英正賢一正克成孝憲茂栄　徳　正高和祥栄一昌善一正　久敏　正総一　和　政久竹幸栄洋秀正芳
塚野内田熊村野橋関野谷邉塚木川橋原井田林塚柳林松藤上辺原野藤部村藤盃本﨑村雲木崎橋原谷永子田城中藤田池原木藤沢藤田子田施谷
赤星倉本小田中大大水渋渡石荒長谷高萩石池小大小小平加川渡塩間遠磯中安飯湯宮岡南鈴福高上関徳金池荒安佐池小菅鈴佐小佐池金池布水
明範浩一雄男男典郎美男幸八徳茂範一行友雄明一勇光美雄誠光江吉正雄一一一之志傳男夫　文利和蔵功一規潤昇義彦敏充己勇宣夫仁栄
道利新則勝和正啓一修睦義正義　文英好邦一道甚　利一恒一守民晶光教定光雄隆和　一紀
田澤林平合藤藤代田椋部藤木瓶名本野木黒井山澤郷邉木妻　井崎城内越藤藤　村部澤椋村
角穴小仁落佐斎田新小渡遠鈴二本根上鈴目室大小北渡鈴新森吉篠栗矢塚遠佐荒岡渡赤石小田

新　潟

義勝吉建　欣
政克正　一　吉武　克
石井藤村川藤野田野藤井川口川井藤辺島中山
佐岡宮近大五十高後永傳樋中平佐渡真田米

和知
義克
本岡
辻時

石川

行門
政長
浦野
西岡
瀬口
島田
内野
寺口
清水
田島
二社谷
坂口
上田
菅原
山口
池田

富山

隆秋
義
井口
水口
青野
岩田
上野
藤本
石本
増田
南部
高橋
中島
内呂
田中
小林
高瀬
桐信一郎
長崎
坪崎
堀江
江波
尾川
地家
堀田
幅
森

三重

司夫
忠
水谷
伊藤
廣田
西川
渡辺
伊藤
重盛
川北
落合
新堂
落合
藤山
山川
中世古

幸弘泰孝彦幸康夫明隆勲幸男雄司夫彦雄次三樹真隆豊幸一彦仁一昭彰雄広志明茂彦夫雄一二之寛一郎守雄彦郎一男喜彦興秀俊夫行敬
弘幸
和秀俊健則
昌佐美公修福昭育正清敏幸
広謙公修徳義国千嘉
康道貴彰賢一雄二一
口田
田山
原
垣島
澤野
村澤
保村
藤田
坂沢
條
原澤
村井
島木
木村
崎田
林中
木本
井澤
口谷
木澤
出田
口村
田田
部
畑山
桐林
岩樋
稲中
白小
荻横
久久
加久
宮宮
上住
塚西
西今
塩佐
中岩
鶴小
田鈴
山酒
柳山
戸松
柳井
和江
岡武
岸阿

福井

雄彦郎一男喜彦興秀俊夫行敬
茂和七晃富金時隆敏英秀宏正
雄
和
七
晃
富
金
時
隆
敏
英
秀
宏
正
村
端
岡
田
本
保
出
木
村
本
野
安
根
中
田
辻
松
松
久
山
佐々
中
藤
淺
今
山

男雄男士郎幸三則之次武男夫潔司国明一仁二光
光眞公武
東一
広孝茂孝親
日出
吉
秀
光
龍
和
英
善
孝
衛
澤
田
澤
山
倉
澤
澤
中
山
原
奈
邉
本
野
本
野
水
田
形
沢
山
倉
澤
澤
中
山
原
比
朝
渡
藤
天
杉
佐
清
原
尾

長野

一司守優博樹司修美幸徹男幸明男正宏剛也司二靖彦淳正樹誠学志司博宏二浩眞一浩司
孝
衛
澤
澤
出
中
森
墻
屋
原
利
田
沢
田
田
森
藤
田
詰
口
内
入
林
取
取
久保
水
村
森
嵐
内
田
川
藤
藤
島
沢
木
田
曽
井
黒
高見
井
田
大
西
土
荻
甘
羽
柳
中
関
齋
窪
橋
堀
竹
宮
小
名
名
久保
清
竹
大
五十
宮
塚
仲
伊
後
中
白
鈴
芝
小木

一紀治弘男宏男代一道一一則郎美一良弘和則夫悟夫一一夫郎雄税雄示幸文央明利孝隆一廣夫夫傳力雄通男守美男孝寛志一男武二司義齋一
栄
光
泰
一
日出
安
安
妥
博
洋
亮
光
賢一
和
弘
常
良
雅
伊佐
吉
幸
正
将
健一
英
主
文
周
和
定
泰
好
一
謙
俊
栄佐
幸
久二
玉
一
信
正
良
好
英
仁
喜
俊
正
藤
羽
村
澤
澤
田
田
崎
内
山
塚
泉
門
辺
池
持
原
野
寄
川
田
橋
伯
島
本
輪
田
田
笠
岡
毛
上
崎
菅
田
塚
井
澤
室
口
原
賀
縣
月
根
沼
本
田
山
谷
田
沼
倉
原
枝
藤
本
村
井
谷
加
黒
中
金
深
吉
安
磯
原
木之
新
貝
小
寺
渡
菊
倉
吉
狩
酒
長谷
堀
板
佐
飯
根
箕
原
森
折
諸
市
井
小松
小
内
大
圓
小
小
山
湯
額
山
大
赤
柿
松
飛
寺
萩野
藤
吉
大
吉
三
遠
宮
野
永
本

行雄郎夫敏隆男也勝治義勤一悟廣則三一雄博昭久雄久雄男徹市夫男男男郎弘夫雄二哉夫久広明明史好行伸弘貢樹
義
教
一
通
照
光
直
浩
栄
定
隆
敏
義
弘
欣
定
秀
兼
孝
勝
幸
貴
貞
隆
利
繁
文
一
和
敬
光
幸
新
晴
文
和
孝
利
直
正
宏
正
正
間
仁
山
村
立
嵐
野
葉
田
佐
藤
宮
根
田
元
木
井
藤
城
口
戸
木
老
田
村
川
山
原
藤
海
川
井
中
田
邉
口
野
藤
野
谷
原
崎
田
原
井
田
原
野
野
田
久
邉
中
中
岩
五十
芝
秋
島
颯
斎
瀬
細
増
紀伊
八
櫻
伊
岩
野
江波
菱
山
北
峯
緑
秋
萩
齊
片
長谷
酒
田
武
渡
関
磯
加
永
小
田
石
眞
栗
石
葛
大河
平
大
澤
佐
渡

茨城

進一清男一輔彦男夫
高
木
木
村
嶋
木
口
達
木
大
鈴
鈴
野
前
植
矢
安
鈴

栃木

昭治男茂孝昭男昭琴幸一康之介夫夫一透一二明三志悟雄一章一実志美一之隆男則作一紀雄
田
伊
茂
稲
網
小太刀
北
小
岸
大
手
櫻
栃
宇
佐
田
久保
上
福
幸
今
渡
薄
星
平
斎
菊
伊
土
鈴
鈴
小
小
石
大
関
室
後
菊
小

山梨

萬夫樹夫光己富和男治之樹人覚彦樹
若
山
中
花
小
伊
清
坂
小
鈴
輿
井
小
渡
依
渡

文浩博介郎浩茂介章徳治英雄博成一博夫明彦博幸志彦祐則幸典作彦広治宏也崇也衆文一重二則英生康勉利憲信児司昌晋規廣作浩憲巳一弘
義視利慎太一崇　良賢誉奉康幹幸勝進光寿康晴文敏昌敏啓佳広哲健雅守政　義　達　博伸忠誠政利睦　和雅保桂健義　睦健大　道貞良敏
深脇田本服林川中田中下谷倉谷田山上谷田本立上岡　田崎田川水立　橋　本辺田畑井塚本井居橋田林川岡山吉又田山水藤藤木田口本木
常宮森橋呉小梅前大前山大篠板吉桐村西石西足井竹堀畑武尾岡前清足沖高森稲渡植西河大根室川大池小吉丸植藤三前中志後後佐々松谷藤保
仁男勇浩治之文伸博壽透宏男肇司司樹敏明治　実仁郎訓次雄史吾樹一夫明一樹勉司博彦男彦一三義優佳雄郎明夫徹和明透樹一裕和彦二
　満　照幸健定卓　博　元幸　隆康繁　一貞　立　純久裕　誠　秀眞幸信岩秀　幸邦数将和修良保　正英彌一正松　伸文　正元年久一譲
野岡宮中伏井　腰中橋川野藤銀間碕口本寺水
西笹安田田阪乾中田石天山近白中髙榮岡小清

兵　庫

岡　尾井水濱海川　本澤木木川崎中田　本村藤谷葉　島地田村尾沼本津本田部本原　本
吉辻清須皿吉梶岩北鈴八安山田島辻岸岡中佐北稲儘倉釜青西山田坂今橋織河岸藤林岸

守道二浩修之真行幸司士彦記　晃明友利一志美夫人忠也毅勲彦誠哉明彦也典弘之伸志浩博司隆靖人幸晴郎二幸学彦均一之二夫　美次
　弘昭義　裕　雅智孝哲範宏　義吉充博太勝一勇　達　敏　一秀和哲正和昌昌仁義正隆義　和俊丈哲耕正　和　仁弘浩岩

京　都

田木下本谷　下木邑下　川下　橋　野田　井賀野野嶌村西砂島山澤田野　原村江橋本戸野田田谷上原木中　田谷本井田川仲松場
長上磐栗田南阪柏小木森中森　高牧柴関安古河菅川川中荒中樹長池小柏松桐堀倉杉佐河澤安小井藤荒山奥原柿山堀中大上植馬

大　阪

金北　谷野　和竹

則広志昇洋宏洋寿彦久門一力記之博志　之洋雄久行真昭充雄彦威敏実一茂徹樹男典弘二幸敦俊長敦郎由樹修之勇徳朗雄明基　清郎義男
和邦雅　一明一典明吉左純　秀利貴勝高　宏恵文安好　民広春一　貞清順信　芳悦龍泰清友　貴博　一勝尚　忠　育哲郁康益　敬勝喜久太
村石木木下　木本本田田沼澤中手下藤寺　原部邉垣部木瀬松　出野平　川木原中藤幕屋屋藤山戸田中野見藤嶽知木　木藤保　川見衣本
西大鈴鈴山南鈴宮山山藤菅宮野川宮内小　笠服渡西宮大廣平堤川久大森藤髙野竹佐横土長近松池野田島鷲佐大愛佐々原内伊安森長谷母鶴御森

岐　阜

静　岡

努也強章基伸美幸典人文栄辞太史仁治都博夫弘郎司司二樹己肇　弘正男晴章匠治秋千郎雄明工己弘一一浩男男弘雅治芳茂敏夫雄夫斉良
　卓　博英　勝孝克政清　昭　隆竹広宏保幸克一和喜代正宏和　育宏吉　工茂敏年恵一義一　克芳唯章貴邦好隆吉　英　陽泰初　治
島泉田田津澤山川木田田山藤井川波柳藤部村藤田口木木川田野　橋藤木馬田島田川高本川林﨑藤山柳月野月木澤垣月　永倉田川田本泉
中今奥山板寺松小髙平沢中後酒小稲一齋服野近増川鈴鈴小岡大　高後鈴平山増浅井大山玉小岩加秋青望星望八小石望森水小権古村杉小
晃次司文進幸実彦之哉司也美光郎健弘臣　二洋康明三夫藏男彦英次義彦全雄男市雄男一彦学明敬人雄勝夫善夫雄夫正二雄浩彦宣司晋利
　秀忠雅　教仁俊重幸久佳友規誠一　康裕　俊保弘秀鉦孝健壽已智佳義政義一辰孝静勝喜美俊義　秀祐正菊正富金一秀秀和浩達　明廣兼啓勝
中　木瀬田村岸谷山田川本森島　岡水田
田西鈴中浦西小細池松中杉田寺岡西清島

愛　知

山岩水三大山鈴杉水宇佐稲松加竹松安野外酒平竹岩髙渡時伊小鷲服木柴菱谷田安安松小瀧鈴鈴
本月野島鹿口木野谷美熊岡藤内本井田薗井野居田沢邊田藤島津部村田川崎中藤藤平林本木木

吾
坂本桂

徳島

相原利市
湯谷和夫
山本隆久
笹田豊
森井裕志
山本隆司
山川浅幸
谷知幸己
新田幸男
松本清尚
久米真文
山口正司
露口善明
奥田本久
江友隆昭
森中西治
林宏章
佐藤隆一
住友宏
坂本寛
古田幸勝
齋藤吉雄
小原宗明
西原平守
梶中重
田正司行

香川

末澤邦弘
三好義光
眞田秀樹
西尾敏美
冨士見学
前田昌治
宮崎良一
石川聡
寶田修
真部徳夫
池田太吉
田中廣佳
江川肇
山崎勝義
堀川正志
井下良雄
神余義久
國方一志
石井義利
今口眞悟

愛媛

森田敏朗
藤原耕司
玉井統次
村上廣敏
梶原榮二
渡部賢二
髙市富男
樹次
秀俊幸
沢山弘正
藤中英三
荒信秀
前茂夫
小正勝
澤幸三
矢寿美
向則明
山一
天光
大司
石行
岩山二
島則
永和
小久
木良
橋治
山治
竹裕
堀治
和
若

山口

高野慶二
関谷昇治
正阿弥典男
村本継夫
冨士山博
金池俊万
篠原和広
岡本俊男
高橋昭廣
川田賢博
横田寿一
山崎重彦
三宅謙継
大隅友二
重谷昌矢
浅野間榮
重田芳昭
村田丈生
貞中哲一
小川栄太郎
岡本民生
白田憲光
河内清忠
三村隆信
池本嶋博
藤重崎武
清一男
岡良治
林正幸
目律夫
河志郎
村昌博
吉田朝
河上昭司
廣永芳郎
藤田
石

広島

川崎芳昭
二反田積
池田嘉文
沖照夫
片平正廣
鍜治山正司
吉岡一三
竹本幸博
寺岡省三
河野幸雄
高橋博文
小鷹狩正法
重本克裕
藤本敏明
上原彰
上佐古内
西垣谷春
大谷孝敏
久藤清家
為清田周
石田本基
松本田雅
深田上敬
井近橋美
延橋福浩
髙福
大
人収
之
藤原
安井
火野口
森啓
江川
藤田
則本
岡崎
伊丹
小川
高森
常國
原田
井上
野崎
青江
松島
長瀬
大久保
青井
田中
西端
難波
杉山
塩飽
大月
日笠
黒沢
三村
角
金森
佐能
薫
典
人
榮
人
博
紀
弘
隆
徳
明
明
夫
義
勲
典
二
二
誠
夫
夫
夫
彦
稔
一
志
英
義
美
之
悟
清
美
久
人
義
浩
康
朗
友
三
武
文
己
元
章
國
義
昭
富
辰
和
和
清
真
忠
守
金
原
田
田
島
尾
原
野
川
野
平
谷
田
田
田
田
田
宮
板
小笠
和
岡
家
村
石
星
品
樋
田
漆
和
豊
中
前
髙
彦
香
二
志
秀
啓
治
雄
純
章
巳
紀
宏
二
文
希
士
喜
文
公
好
富
栄
則
正
克
雅
雅
孝
賀
隆
剛
惣
十
郎
明
本
橋
崎
口
本
本
川
岡
鼻
場
下
山
本
山
井
藤
熊
上
家
池
瀬
尾
口
見
本
木
杉
石
塩
谷
森
山
大
西
垣
馬
寺
西
家
外
寺
加
生
野
大
小
柳
平
南
毛
松
楠
義
眞
明
一
也
詞
明

鳥取

大田康範
井上健一
友森篤夫
伊藤茂
安田悟朗
唐来明夫
九鬼清高
大谷英明
花原義徳
谷口陽一郎
吉田道明
林雅則
絹谷澄雄
小林一弘

島根

友塚博美
齋藤茂
高麗光
小川重夫
石川誠志
宮崎広延
德田哲治
栗栖一雄
伊藤一人
大森浩典
中筋仁志
立花順心
福間達雄
漆谷幸男
桐木保男
椋木賀壽男
小池博己
公
史
孝
一
清
寿
義
宏
山崎
今井
奈良
西垣

奈良

別所久男
櫻井利文
堀内秀起
倉本一雄
山中教生
奈加秀人
井上佳輝
吉川天祥
辻本雅則
森田昌宏
吉本利郎
川嵜政信
笹岡一好
佐々木弘之
吉村實
西谷浩
岡橋清光
速水義秋
勝井信久
岡田昭夫
土肥和久

滋賀

堀井宣男
小嶋康三郎
音野茂
前田浩三
木村裕司
舩橋克典
冨田博文
平塚誠宏
塩谷昌司
竹中隆
平田文治
中江健祐
石森文和
吉村幸夫
北川義和
赤井清司
北村五十三
小山義弘
増田嘉彦
冨江源隆
西山ノ石江
小林元司
尾板昭治
大村一郎
勇

和歌山

鍵本元雄
畑哲也
出口博一
小淵郁夫
太田祐五

志郎司治覚憲稔二二明之冶行義文二臣伸生望治之一幸二幸昭記冶博男昭次一弘信信美雄豊利幸行介政夫一二

佳八
多信
村　方禮
後西緒石牟吉荒岩宮下中田瀬加德西冨士石楢北福作加北内秋小辛阿阿桐白中羽下古平古林丸福盛宮山宮西松黄野

淳亮一孝　昭敬英博智浩光博公孝高幸　啓孝桂利裕良文輝時市徳博誠清幸秀秀廣久　長万孝大善三千呉浩

宮崎

坂元栄二郎一一司二豪二二美靖男
長友真真敦健健浩昭豊富
木村友口田木本岡丸田
長谷三鈴杉倉藤上

海木崎岡田口中口藤永浦田田野野田本賀里藤吉陣嶋南南原石尾田田庄野閑田山田川原村田　野檗田

見徳三弘人久豪郎二美利聡一郎信輔明喜悟悟雄俊澄進

勝武龍明義和　万一孝和正　伸勝隆幸義幸　秋信寛

場村川井泉町永松包月地中村田　岡瀬口本崎　尾永石

草中立土諸水森永貞香宮田中牟藤西一ノ樋橋杉辻松諸岩

熊本

織田繁美
清崎正文
主計実
松尾裕史
赤池晴美
山岡正治
山本繁晴
小島秀昭
田口健一
内山丸雄
中村精也
木下亮二
窪田實穂
鹿帰瀬一俊
熊坂義治
宮嵜眞佐美
鳥羽瀬博文
宮田新一
山口純一
西野誠二
中村敏一
宮本雄治
西田勉
髙清治
石塚二弘
山道和晴
冨岡弥
山口光幸
洲崎俊次
上田美知雄
山瀬清高
内田靖
水野浩昭
杉本幸一
犬童正浩

生実雄敏洋徳誠猛雄伸憲郎勝利明己一生彦信儀一治治亮生朗光守通司生男美美一実

英三
宇長雅文隆源　一英孝伸次正文義初孝則敏安信幸源友孔武初豊員　裕平久正和英清

野東田村田田方澤杉内継藤　上田山木藤岡田　井野木藤田南田築谷永水山藤藤田谷

河伊疋三田多嶋緒合上藤久後関田鴎小髙佐平石東柳川松佐森山西都土是花若後工太土

佐賀

大丸政人
岡本聡
袋洋之
木塚嗣雄
満岡保徳
野崎力
市丸豊
橋本英樹
秀島正則
伊藤新一郎
水上茂美
家原定生
川原弘和
畦間淳
藤田英樹
川添光尚
川本昌広
松岡伸一
尾形史善
黒岩祐二
坂本徳治
前川修

男利徹男則博隆郎男晴一嗣幸敦夫治弘紀之勝衛典二剛勝義身治一司一之雄滋文義行三司敏久博二太治紀雄利雄東一志藏治憲輝

定勝　文利　大次
永藤　坂田崎口内
福安角野戸山坂安河大井三松牛下浦大早光田白奥田清黒松川松前横首神木米合瀬平目坂黒山山栗樋吉西城吉城長中竹池藤佐々田武

孝博順信良　幸誠義洋敬正基英昭　正修雄清純力博達　孝親弘昭浩繁和政誠信晋恒好重賀津廣亮貴隆惠正義

大分

首藤保
芦刈和成
金子浩

茂正豊爾久正雄

長崎

磯二郎一信利吉郎剛則郎一郎二郎久男敏美昭美敏一幸憲次男國之二己吉夫行行雄介則二也男等治義夫夫生行英一

長田寅一
藤下武一
小川川野
石山片副
陣野永中
西山嶋尾吉田田
瀬片副永中
野村田福五松井太永金井水権横橘百江前山四槌永髙馬佐吉緒松永白山山池二石松山之松吉松山

福岡

今林與志夫
松田秀敏

田江市村野村井
新若武松津岡浅

勲宏保彦文祥治也文男強夫政伝弘仁久己治三春志三雄夫一生雄道信男志司一喜雅和悟二博二修司二敬

正　直正雅次哲博久壽
川田　亀岡野井瀬津程田池下本城木森藤方木下上田　口田尾本山橋川　浦藤橋川橋智野野塚部　本

高知

中屋隆
横田薫
下元安男
広田穂
池上幸助
尾崎廣行
勝賀野修身
井上博之
濱田満廣
山崎國男
松山榮喜
近藤等紀
松本照秋
別府常雄

中岡林十上矢谷三中大亀菊山上上佐々家佐阿正山村杉森出戸長水福髙石堤三伊髙森髙越永上八安菅菅古

丸山博史
橋口兼貴
神野寛次
荒川章次
川野宗久
徳永裕司
堤田春彦
武田和彦
矢野哲也
森下三郎
大宮路成年
中武義治
上米良義郎

那須重美
栗田英治
椿原宏次
黒木勇
木本一男
和木務
室屋健司
矢野善五郎
岩切宏昌
佐藤太志夫
佐藤靖則
谷口和利
興梠浩幸

鹿児島
橋口初男
市坪秀美
木佐貫誠
塚田修二
浜崎隆治
清永茂利
井之上芳徳
胡摩和男
平山優
戸島啓文
溝口和夫

徳永博稔
永田芳次
原田典一
福留健二
松木健男
古田嗣晃
松山宏幸
野頭康夫
吉水康博
佐澤利高
花田清夫
有下次徹

黒木義一
梅北順朗
小野哲義
阿世知重成
中村泉
家弓正勝
田畑茂樹
入来田孝
岩浅久雄
古薗俊一郎
別府一誠
米山久光
高橋稔

宇都建夫
浦島茂
原之園重己

沖縄
金城裕
外間尹弘
渡慶次喜光
仲尾次景弘
大浦茂徳
宮城丈也
比嘉繁森

勤続章受章者　7,374名

北海道	上田孝志	他 708名
青森	小山内喜代司	他 205名
岩手	石川一夫	他 349名
宮城	長谷川栄	他 360名
秋田	中嶋計廣	他 288名
山形	清水士朗	他 106名
福島	木村豊	他 213名
新潟	古沼忠男	他 237名
東京	小野里耕作	他 209名
神奈川	土屋弘毅	他 113名
埼玉	岡村好一	他 219名
群馬	萩原正彦	他 114名
千葉	榎一郎	他 368名
茨城	圷久	他 174名
栃木	海老沼啓一	他 82名
山梨	渡邊修一	他 15名
長野	佐藤淑人	他 31名
福井	森田守生	他 55名
石川	宮本哲一	他 44名
富山	増田久義	他 122名
三重	伊藤正男	他 59名
愛知	森導和	他 96名
静岡	山田章	他 34名
岐阜	郷浩	他 49名
京都	森田清	他 81名
大阪	阪本幸重	他 57名
兵庫	土屋雄司	他 179名
奈良	生駒正夫	他 110名
滋賀	山形幸二	他 69名
和歌山	山部喬	他 177名
鳥取	中本信秋	他 149名
島根	渡部正夫	他 125名
岡山	坂本延夫	他 285名
広島	山田隆教	他 171名
山口	野々村浩	他 224名
徳島	木下修作	他 114名
香川	磯淵泰男	他 106名
愛媛	重川誠	他 259名
高知	蒲原利明	他 126名
長崎	小川一利	他 101名
福岡	西藤貴司	他 142名
大分	橋下和之	他 152名
佐賀	中原正則	他 36名
熊本	髙木勝則	他 106名
宮崎	尾中代傳	他 102名
鹿児島	上野忠洋	他 183名
沖縄	知念正典	他 24名

優良婦人消防隊（表彰旗）　17隊

都道府県名	消防隊名
北海道	旭川市女性消防隊
岩手	奥州市前沢区婦人消防協力隊
宮城	栗原市栗駒支部婦人消防隊
福島	会津美里町雀林婦人消防隊
神奈川	開成町下島女性消防隊
茨城	取手市婦人消防隊
栃木	那須塩原市西那須野女性消防隊
石川	金沢市田島女性消防隊
富山	氷見市余川地区婦人消防隊
愛知	七宝町女性消防隊
滋賀	中野区女性消防隊
岡山	矢柄住宅女性消防隊
山口	阿品婦人消防隊
香川	高松市十河校区女性消防隊
高知	土佐市谷地婦人消防隊
長崎	対馬雞市知地区婦人消防隊
福岡	小呂婦人自衛消防隊防火クラブ

※優良婦人消防隊員（功績章）　22名

都道府県名	消防隊名
北海道	村上セツ子
岩手	遠野久子
宮城	渡邊ひろ子
宮城	三浦とみ子
秋田	大澤ヨシ子
福島	村松末子
神奈川	須藤住子
茨城	高橋栄子
栃木	鈴木康子
石川	島田喜代美
富山	石倉啓子
愛知	柴田節子
愛知	狭石佐知江
奈良	樋口啓世
滋賀	古田和代
和歌山	藤本綾子
岡山	大重喜志子
山口	岡田五百子
香川	甲斐シズ
高知	石川悦子
福岡	西木マキ子
佐賀	川内嘉津子

都道府県消防協会等役職員永年勤続者表彰受章者　3名

日本消防協会	鵜澤久恵
福島県消防協会	尾形美奈子
兵庫県消防協会	庄慶浩一

財団法人日本消防協会及び全日本消防人共済会の役員会議の開催

平成22年２月10日（水）、財団法人日本消防協会及び全日本消防人共済会の役員会議が日本消防会館において開催されました。

財団法人日本消防協会役員会議
理事会、代議員会

平成22年度事業計画、平成22年度予算及び平成22年度都道府県消防協会会費等各議案の審議が行われ、原案のとおり決定及び承認されました。

○　提出議案等

（理事会及び代議員会）

第１号議案　　平成22年度事業計画について

第２号議案　　平成22年度予算について
・普通会計
・特別会計
日本消防会館事業特別会計
出版物事業特別会計
福祉共済事業特別会計
消防互助年金事業特別会計
防火防災訓練災害補償等共済事業特別会計
婦人消防隊員等福祉共済事業特別会計
・全国消防殉職者遺族会会計（代議員会のみ）

第３号議案　　平成22年度都道府県消防協会会費について

第４号議案　　地震等防災対策委員会委員の委嘱について（理事会のみ）

諸般の報告　　福祉共済事業等について
モデル少年消防クラブの選定等について
第22回全国消防操法大会について

理事会

代議員会

引き続いて、全日本消防人共済会の理事会、総代会が開催されました。

全日本消防人共済会理事会、総代会

平成22年度事業計画及び収支予算、全日本消防人共済会事業規約実施規則等の一部改正等の各議案の審議が行われ、原案のとおり決定及び承認されました。

○　提出議案

（理事会及び総代会）

第１号議案　　平成22年度事業計画及び収支予算について

第２号議案　　役員の選任について

第３号議案　　全日本消防人共済会事業規約実施規則等の一部改正について

報告事項　　総代の改選について

都道府県消防協会事務局長会議の開催と第22回全国消防操法大会の抽選会を実施

財団法人　日本消防協会

平成22年２月４日（木）、午後１時30分から日本消防会館５階大会議室において、都道府県事務局長会議が開催されました。

会議は、秋本理事長の挨拶のあと、消防庁 市橋総務課長より平成22年度の消防庁予算（案）の概要について説明があり、引き続き公益財団法人・公益法人協会 専門委員 岡部 亮様より「公益財団法人への移行にかかる諸問題」について講演をいただきました。

各部からの22年度事業の説明で終了しましたが、その後22年度に実施されます第22回全国消防操法大会の出場順位の抽選会が行われました。

抽選結果は、以下のとおりです。

秋本理事長の挨拶

第22回全国消防操法大会出場順位抽選会

第22回全国消防操法大会　出場順

コース／出場順	ポンプ車の部	小型ポンプの部
1	熊本県	岡山県
2	長野県	鹿児島県
3	北海道	石川県
4	三重県	島根県
5	香川県	岐阜県
6	福岡県	千葉県
7	大阪府	青森県
8	高知県	京都府
9	長崎県	佐賀県
10	福井県	群馬県
11	山形県	奈良県
12	秋田県	広島県
13	富山県	東京都
14	静岡県	山口県
15	徳島県	宮城県
16	茨城県	愛媛県
17	鳥取県	兵庫県
18	栃木県	大分県
19	宮崎県	山梨県
20	沖縄県	愛知県
21	愛知県	岩手県
22	和歌山県	福島県
23	神奈川県	新潟県
24	埼玉県	滋賀県

※ ポンプ車の部の出場順について、奇数が第１コース・偶数が第２コース

第9回消防団幹部候補中央特別研修開催について

財団法人　日本消防協会

本研修は、将来の消防団を担う人員育成のため、幹部候補として活躍が期待される若い消防団員を対象に、全国から総勢220名が男女別（男性の部141名、女性の部79名）に参加し、男性の部は、平成22年2月17日（水）から19日（金）まで、女性の部は、22日（月）から24日（水）までの期間、それぞれ日本消防会館において２泊３日の日程（研修内容別添）で開催しました。

秋本敏文日本消防協会理事長による「講話」をはじめ、講師の方からは、魅力ある消防団づくりや防災指導に関する講義、また課題討議等の研修を行いました。

課題討議では、テーマごとに班別でわかれ、それぞれの消防団の活動状況や直面している課題等について活発な意見交換が行われ、研修の最後には班別に取りまとめた意見の発表を行いました。

研修生は今回の研修を通じて、消防団員としての幅広い視野を身につけるとともに、地域を越えた交流を図ることができ有意義な研修となりました。

理事長挨拶

男性消防団員の部

講義

課題討議発表

女性消防団員の部

講義

課題討議

第９回消防団幹部候補中央特別研修日程表【男性消防団員の部】

【１日目】　平成22年２月17日（水）

時　　間	区分・科目	摘要・講師
15：10～15：20	開講式	
15：30～16：10	講話	（財）日本消防協会理事長　秋本　敏文
16：10～16：40	課題討議（グループ毎に課題討議を実施）	

【２日目】　平成22年２月18日（水）

時　　間	区分・科目	摘要・講師
９：00～９：50	活動事例	東京都赤羽消防団分団長　　小澤　浩子
10：00～10：50	話し方講話	東京都赤羽消防団分団長　　小澤　浩子
10：50～11：20	写真撮影（ニッショーホール）	
11：30～12：50	課題討議・昼食	
13：00～13：50	住宅用火災警報器普及啓発	日本火災報知機工業会
14：00～14：50	魅力ある消防団づくりについて	（財）長野県消防協会　参与　五十嵐　幸男
15：00～15：50	災害予防と防災指導について	在日米海軍司令部地域統合消防隊　予防課課長　長谷川　祐子
16：00～17：15	課題討議（グループ毎に課題討議を実施）	

【３日目】　平成22年2月19日（金）

時　　間	区分・科目	摘要・講師
８：40～10：50	課題討議（グループ毎に課題討議を実施）	
11：00～12：00	防災とコミュニティ	富士常葉大学環境防災部　教授　重川　希志依
12：00～12：50	課題討議・昼食	
13：00～14：30	課題討議発表・講評	総務省消防庁　対策官　田中　勝久
14：40～15：20	閉講式	

第９回消防団幹部候補中央特別研修日程表【女性消防団員の部】

【１日目】　平成22年２月22日（月）

時　　間	区分・科目	摘要・講師
15：10～15：20	開講式	
15：30～16：10	講話	（財）日本消防協会　理事長　秋本　敏文
16：10～16：40	課題討議（グループ毎に課題討議を実施）	

【２日目】　平成22年2月23日（火）

時　　間	区分・科目	摘要・講師
９：00～９：50	活動事例	東京都赤羽消防団分団長　　小澤　浩子
10：00～10：50	話し方講話	東京都赤羽消防団分団長　　小澤　浩子
10：50～11：20	写真撮影（ニッショーホール）	
11：30～12：50	課題討議・昼食	
13：00～13：50	魅力ある消防団づくりについて	（財）長野県消防協会　参与　五十嵐　幸男
14：00～14：50	消防団実務	東京消防庁防災特別指導員　谷口　由美子
15：00～15：50	災害予防と防災指導について	在日米海軍司令部地域統合消防隊　予防課課長　長谷川　祐子
16：00～17：15	課題討議（グループ毎に課題討議を実施）	

【３日目】　平成22年2月24日（水）

時　　間	区分・科目	摘要・講師
８：40～10：50	課題討議（グループ毎に課題討議を実施）	
11：00～11：50	住宅用火災警報器普及啓発	日本火災報知機工業会
12：00～12：50	課題討議・昼食	
13：00～14：30	課題討議発表・講評	総務省消防庁　対策官　田中　勝久
14：40～15：20	閉講式	

平成21年度　第９回消防団幹部候補中央特別研修
平成22年２月17日～19日　於　日本消防会館

平成21年度　第９回消防団幹部候補中央特別研修
平成22年２月22日～24日　於　日本消防会館

住宅用火災警報器の普及状況の推計結果（平成21年12月時点）

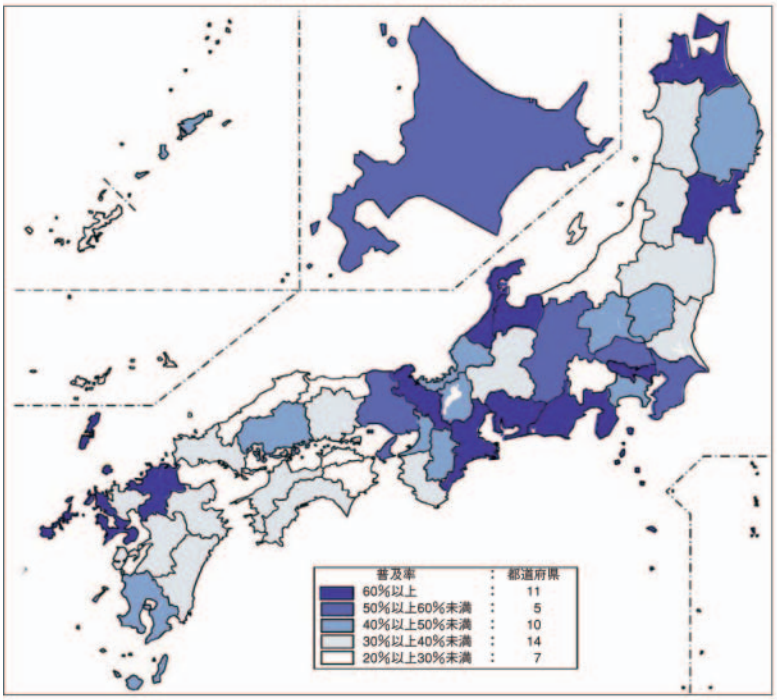
総務省消防庁　予防課

1. 推計結果の概要

消防庁では、消防法の改正により設置義務化された住宅用火災警報器の普及率について、平成21年12月時点での推計を実施しました。その結果、平成21年12月時点の全国の推計普及率は52.0%となり、東日本の方が西日本に比べ、6.5ポイント程度普及が進んでいることがわかりました。

消防庁では、この結果を各都道府県消防防災主管部長等に通知するとともに、今後、更なる普及促進活動の推進を呼びかけていくこととしています。

＜推計普及率（都道府県別）＞



都道府県名	推計普及率
北海道	58.5%
青森県	67.2%
岩手県	41.1%
宮城県	74.7%
秋田県	32.8%
山形県	37.7%
福島県	35.5%
茨城県	39.3%
栃木県	49.3%
群馬県	48.4%
埼玉県	52.1%
千葉県	55.7%
東京都	65.8%
神奈川県	42.7%
新潟県	29.7%
富山県	61.4%
石川県	72.8%
福井県	42.3%
山梨県	28.0%
長野県	56.1%
岐阜県	35.1%
静岡県	60.4%
愛知県	68.3%
三重県	60.6%
滋賀県	46.0%
京都府	61.6%
大阪府	49.7%
兵庫県	53.8%
奈良県	48.3%
和歌山県	39.6%
鳥取県	27.7%
島根県	27.6%
岡山県	37.5%
広島県	48.9%
山口県	37.2%
徳島県	27.4%
香川県	23.1%
愛媛県	36.2%
高知県	33.7%
福岡県	65.2%
佐賀県	33.1%
長崎県	62.7%
熊本県	39.1%
大分県	31.4%
宮崎県	33.9%
鹿児島県	49.4%
沖縄県	27.9%
計	52.0%

＜推計普及率（全国）＞

	総世帯数 A	うち推計普及世帯数 B	推計普及率 B／A
義務化済み	1,906万世帯	1,159万世帯	60.8%
今後義務化	3,001万世帯	1,394万世帯	46.5%
全　国	4,906万世帯	2,553万世帯	52.0%

※平成21年12月時点で条例により既存住宅への住宅用火災警報器の設置が義務化されている地域を「義務化済み」に、今後義務化される地域を「今後義務化」に区分している。
※一定規模以上の共同住宅等で自動火災報知設備等が設置されていることにより住宅用火災警報器の設置が免除される場合も「推計普及世帯数」に含む。
※総世帯数は平成17年国勢調査の結果による。
※四捨五入により各値の計算値が表中の値に一致しない場合がある。

＜推計普及率（ブロック別）＞

	ブロック	地域数	推計普及率
東日本	北海道	67地域	58.5%
	東北	99地域	47.0%
	関東	206地域	54.3%
	東海	74地域	61.3%
西日本	東近畿	91地域	55.0%
	近畿	64地域	51.2%
	中国	52地域	40.3%
	四国	54地域	30.9%
	九州	136地域	49.6%
	計	843地域	52.0%

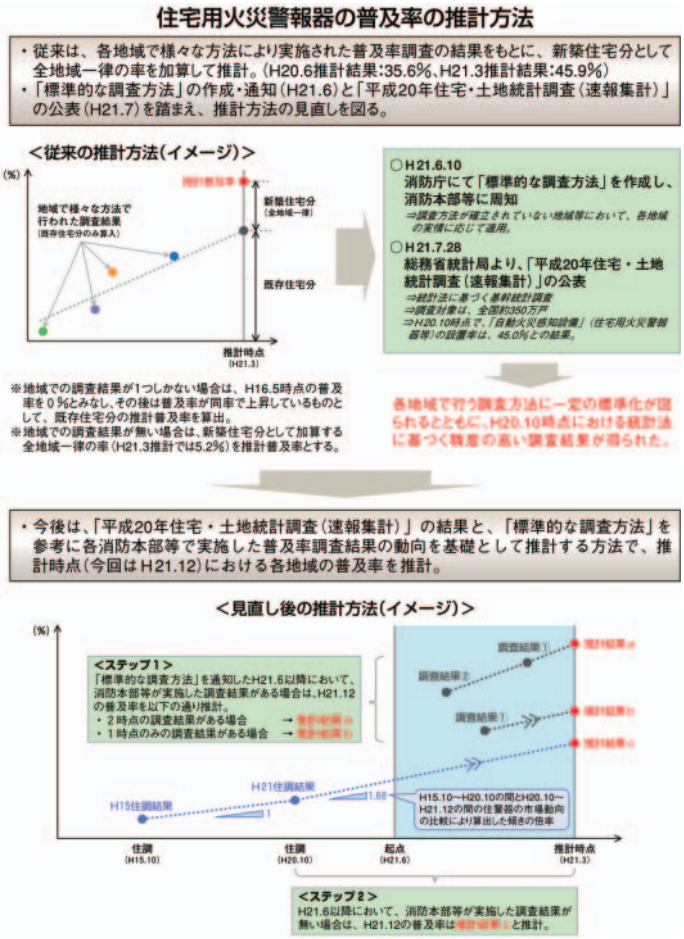
東日本　54.6%
西日本　48.1%

※「ブロック」は全国消防長会の支部を単位としている。
※東海（愛知、岐阜、三重）と東近畿（富山、石川、福井、滋賀、京都、奈良、和歌山）を境目として、東日本と西日本に区分。

2. 推計方法

今回の推計では、推計方法の見直しを行っています。従来は、各地域で様々な方法により実施された普及率調査の結果をもとに、新築住宅分として全地域一律の率を加算して推計していました（平成20年６月時点推計結果：35.6%、平成21年３月時点推計結果：45.9%）が、「標準的な調査方法」の作成・通知（平成21年６月）と「平成20年住宅・土地統計調査（速報集計）」の公表（平成21年７月）を踏まえ、推計方法の見直しを図ったものです。

今後は、「平成20年住宅・土地統計調査（速報集計）」の結果と、「標準的な調査方法」を参考に各消防本部等で実施した普及率調査結果の動向を基礎として推計する方法で、推計時点（今回は平成21年12月時点）における各地域の普及率を推計することとしています。



東西南北 沖縄

珊瑚に囲まれた美しい島の防災リーダーとして！

久米島町消防団　団長　仲地　雄二

久米島町の紹介

久米島町は平成14年４月１日、島にあった２つの村（具志川村、仲里村）が合併して誕生した新しい町です。

行政区面積は63.50㎢で、沖縄本島那覇市の西方100㎞の東シナ海に位置し、久米島本島、奥武島、オーハ島の有人島及び無人島で米軍の射爆場となっている鳥島、さらに鹿児島県徳之島の西方にあり県内唯一の活火山島でもある硫黄鳥島を含む5つの島から構成されています。

島の北部にラムサール条約に登録されている大岳、宇江城岳、南東部にはアーラ岳を中心とする山地が連なり、南西海岸は緩やかな砂丘海岸で北西海岸（西銘崎）一帯から島南西部を取り囲むように隆起珊瑚礁が延び内海（イノー）を形成しています。南東部海岸は平成８年に「日本の渚100選」に選ばれたイーフビーチがあり美しい海浜地帯となっています。また、島の東側（奥武島～御願崎）には隆起珊瑚礁、砂州（はての浜）が約８㎞にわたって延び美しい景観をつくっています。

温暖な気候と風光明媚な自然の景観にあこがれた観光客が島の自然を堪能し、島の人の情けや温もりに、再び久米島を訪れるということも多く、一年中、観光客でにぎわう人に優しい島でもあります。

はての浜

畳石

久米島町消防団の紹介

昭和55年久米島消防組合発足に伴い、消防団事務を仲里村役場及び具志川村役場から消防組合に移管し、久米島消防組合消防団発足定員20名でスタートしました。昭和57年４月には、消防団員定数を20名から30名へ改正し、新団員10名入団しました。さらに、平成６年４月、消防団員定数を30名から40名へ改正し、新団員14名が入団、そして現在数は充足率100％で１町１団２分団、合計40名の消防団員を擁したことで、発足時の2倍の定数となり活動も充実しております。

消防車両等の装備については、水槽付き消防ポンプ自動車１台、小型動力積載車１台、小型動力ポンプ４機を保有し、訓練等や有事の際に活用しております。

久米島町消防団の活動

久米島町消防団の活動は、５月の消防フェアーからスタートします。消防フェアーは、久米島町内の幼児児童生徒及び保護者、住民を対象とした防火思想の高揚を図る共に、消防に対する認識を深めてもらうことを目的として行われます。

幼児から一般住民への消防フェアーへの参加を募り、消防本部内において放水体験、３on３、煙中体験コーナー、各種体験コーナー等を設け、消防体験を実施しています。その消防フェアーでの体験を通して、幼児児童は、火事から身を守ることの大切さや、危険を回避する体験を積んでいきます。また、放水体験からも、放水時の水の勢いへの対処の仕方には仲間との協力の大切さを学んでいきます。消防体験を通して消防団員の活動を知ることは勿論ですが、消防団員との交流を図りながら、消防署を身近に感じとってもらうことも、この消防フェアーの大切な目的です。体験を通して、消防の仕事の大切さと同時に、大変さを感じとる中で、この仕事への夢をはぐくむことにも役立てていきたいと考えています。

消防フェアー

放水体験

3 on 3

消防団員の主な活動は

１　毎年、６月から３月にかけて実施される訓練

①危険物施設火災防御訓練　②航空機事故火災救難総合訓練　③久米島町防災訓練　④林野火災防御訓練等　⑤その他に消防団定期訓練を実施しております。

２　消防団員としての資質力量を高める研修

①消防団員基礎教育　②消防団員警防科研修等にも積極的に参加し、消防団における知識、技能のレベルアップの向上にも努めております。

３　出初め式（毎年１月に挙行）

①消防職・団員の観閲式　②展示訓練を披露することで、地域住民への安全に対する信頼と理解を得ています。

最近の消防団員の活動を一部紹介します。平成20年度に発生した牛舎の火災には、通報を受けていち早く現場に駆け付け、迅速な処理で、被害の拡大防止に努めることができました。

また、平成21年度には、町内のスポーツレクが行われた際、心肺停止に陥った男性の救急事故に遭遇した消防団員による、迅速な通報・関係者との連携プレーで、AEDを使用した救命処置を行い、尊い命を救うことができました。これらの火災、救命処置等は、常日頃からの訓練により活かされた結果だと思います。今後も消防職員と連携を保ち安全・安心な街づくりに励んでまいりたいと思います。

おわりに

近年、全国各地で地震や自然災害が頻発し、地域社会に甚大な被害と不安をもたらし、安全な生活が脅かされています。そして、今後も地球温暖化に伴う自然災害が後を絶たないことが予測されます。

離島である久米島町は大規模災害発生時に、他の市町村から応援が受けにくい地域であることから、自分たちの地域は自分たちで守るという強い郷土愛護の精神に基づき、地域住民や関係機関との連携を密にし、地域住民の安全・安心を守り、地域の防災リーダーとしての誇りを忘れず団員一丸となって努力していく所存であります。

東西南北 福井

伝統「走りやんこ」を守り抜いて

勝山市消防団　団長　米村　敏男

1. 勝山市の紹介

勝山市は、福井県の東北部に位置し、市の中心は県都福井市の東方約28kmの地点にあり、東南は大野市に、西南は福井市、北西は坂井市、永平寺町、北は石川県に隣接しています。市街地は九頭竜川の流れに沿って形成された河岸段丘に位置しており、明治以来の地場産業である繊維産業を中心とした商工業や古くから盛んな農林業を基幹産業とする水と緑の豊かな田園都市です。

またこのたび、当市は日本ジオパークに認定「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」され、日本一の恐竜化石発掘地と全国有数の自然系博物館である「福井県立恐竜博物館」、そして明治38年から平成10年まで中堅機業場として創業していた建物『はたや記念館「ゆめおーれ勝山」』をメインに、市全体がまるごと博物館「ふるさと元気博物館」になることを目指して、意欲と元気にあふれたまちづくりを進めているところです。

2. 消防団の概要

昭和29年９月１日に１町８ケ村の合併により市政が施行されるにあたり、現在の勝山市消防団が発足しました。12ケ分団、消防団長以下294名の編成で、３台の消防ポンプ自動車、10台の小型動力ポンプ付積載車を配備して各管轄区域の防災活動にあたっています。

平成３年には、県内初の女性消防団員３名が誕生し（現在24名）ファイヤーヘルパー等、防火防災活動の普及啓発活動を中心に活躍しています。

3. 消防団の活動

消防団の主な全体行事としては、１月の出初式に始まり、消防署と合同での消防訓練（春・秋）、林野火災防御訓練と入山者への警戒、６月の水防訓練、各地区の自衛消防隊との合同訓練、８月の夏祭り警備、11月の団員教養、防火パレード、年末警戒等を実施し地域住民に頼れる消防団として活動を展開しています。なかでも消防ポンプ自動車操法には積極的に取り組み、毎年実施される福井県消防操法大会での優勝を目指し、各分団が輪番制により出場しています。過去県大会において幾度となく優勝、

準優勝を勝ち取り全国大会にも出場しました。

4. 走りやんこ

明治29年４月13日午後９時、勝山町に大火が起り、町並みの８割を焼き尽くしました。以来、４月13日は春季消防演習日となり、演習のあとに、組対抗リレー競技が行われることになりました。

参加選手は12ケ分団から各14名ずつ、計168名、これを２組に分け６ケ分団ごとの対抗で行います。６ケ分団は青・黄・赤・茶・緑・黒に色分けされ、また、長さ1.6m、重さ3.5kgの「まとい」がバトンとなります。

活動服にヘルメット、長靴、首には色別のハチマキを巻き、まといを担いだ６人の選手は出発地点に勢ぞろい、旗を振り上げる合図でスタート、まといをリレーしながら市街地のコース約２kmを走りぬけ、長山公園上り口に至ると、ここでは４mも高い所で待っている最後の走者に向かってまといを放り上げ、上手にキャッチした団員は桜満開の長山講武台跡に立てられた６本の色別の標旗の決勝点に向かって走り、「ぶんてん突き」といって標旗をまといで突き倒した時点で順位が決まります。

走りやんこのおこりは、江戸時代後半に始まる「勢揃い」と称する行事が始まりといわれています。しかし現在は、勝山大火（明治29年４月13日）を記念して行われる春季消防演習のあと、余興として行う分団対抗の競争となり、高い所へも駆け登れる強い脚力と機敏性を養うという意味があって、町の北端を出発点とし、長山講武台跡の到着点までその通過順路を毎年あらかじめ定めて行います。

昭和56年４月７日には市指定の無形民族文化財に指定され、古き良き伝統と文化を後世に伝承し市民の安全・安心の礎となっています。

5. 終わりに

消防団員の平均年齢は44.9歳、平均勤続年数は13年であり、充足率は約98%を維持しておりますが、団塊世代の団員退職が相次ぎ、技術を要する現場活動は決して楽観できない状況です。

このため、複雑多様化する各種災害に対応できるよう日頃から知識の向上と訓練を重ね技術の習得に励み、万一の災害に備えています。

また、「消防団協力事業所表示制度」を多くの事業主の方々に理解を求め、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛をもって、「組織力」や「機動力」の確保・維持に努め、諸先輩が残した伝統を重んじて、全団員が一致団結して安心で安全なまちづくりを目指してまいります。

「平成21年7月 中国・九州北部豪雨を体験して」

福智町消防団　団長　中村　博樹

1.　福智町の紹介

福智町は、福岡県の東北部に位置し、北は北九州市・直方市、東は香春町、南は田川市・糸田町、西は飯塚市と接し、総面積は42.04㎢で、福岡県の0.8%を占めています。

福岡・北九州の両政令指定都市の中心からそれぞれ約45km、約35kmの距離にあります。

周辺を丘陵地、山地に囲まれた盆地で、町の中央部を彦山川と中元寺川が北部へ貫流しています。また、標高901mの秀麗な福智山がそびえ、その麓は北九州国定公園に指定されるなど緑豊かな自然環境に恵まれています。

高さ25mの滝が小渓谷をなす上野峠の近くには400年以上の伝統を誇る国指定伝統的工芸品「上野焼（あがのやき）」の窯元が点在する陶芸の里となっています。

2.　消防団の概要

平成18年３月６日の合併と同時に、福智町消防団として新たに発足しました。三町（旧赤池町・旧金田町・旧方城町）合併による旧消防団の早期融合を図るため、１消防団、15分団、定員395名の組織としました。

また、旧金田町で組織されていました女性消防隊も引き続き任意の団体として活動を行っています。

装備については、消防指令車２台、消防広報車１台、消防ポンプ自動車14台、可搬式ポンプ積載車２台を配備し、20年以上超過した消防車両は年次計画により随時更新し有事の際に備えています。

3.　消防団活動

毎年恒例の１月第２日曜日に隣接糸田町との下田川二ケ町連合消防出初式で活動が始まり、４月には消防幹部会議で新年度の事業計画を立て、この計画に基づき活動を展開しています。

昨年10月には新入団員研修を田川地区消防署金田分署の協力により、署員の指導の下講義と基礎訓練を実施しています。11月には同署員の指導で、全15分団を３班に分け、消防自動車５台、消防ホース５本連結

による中継送水及び放水訓練を実施しました。この訓練を初めて経験する団員が多くなり、本町では山林が多く消防団にとって毎年でも実施しなければならない訓練の一つになります。

4. 平成21年7月　中国・九州北部豪雨災害

24日午後6時半ごろから1時間に80㎜前後の雨が3時間近く降り、全町で水嵩が増しました。

午後7時に災害対策本部を設置して全団員を招集し、非常配備の体制を整えるとともに本庁舎において団長・副団長は指令活動を開始しました。しかし、住民や各分団からの電話や無線で浸水対応要請や被災状況報告がひっきりなしに入り、団員の人手が足りなく手の付けられない状況になりました。

このような中で、団長・副団長は現場へ向かい道路冠水による通行止めや迂回路の指示、次の現場では浸水防止の土のう積みを副団長自ら運搬と積み上げを行いました。この最中に福智山裾野の小川の氾濫で陥没した道路に女性運転の車が落ち中に閉じ込められ救助の人手が足りないと連絡があり、現場へ急行するとともに、自分を含め8名で膝上の濁流の中、救助作業中の団員や女性が流されないようロープを使い無事救助しました。

この救助が終わるとすぐに住宅浸水の現場へ向かう中、土砂崩れが発生し家屋2棟が巻き込まれたとの通報を受けその現場へと急行しました。消防署員と消防団員が二手に分かれ、1棟から2名を救出しあと1棟は全壊しており3名が倒壊家屋の下敷きとなっており、県警機動隊も加わり懸命の救助活動を行い、2名を救出しましたが、朝方1名は心肺停止状態で搬出され、午前4時にこの現場を解散し、災害対策本部へ戻りました。

今回の危険な災害現場に身を置き、一丸となって活動する団員の消防使命感の強さに感服するとともに、地域の消防団の重要性と必要性を改めて痛感しました。

5. 終わりに

福智町消防団においても団員減少やサラリーマン化などの問題を多く抱えております。私は団員も住民の代表になり誇りを持って消防団活動を住民にアピールし、消防団の必要性を理解していただきまして、団員増加の解決に結び付けていき魅力ある消防団を作りたいと考えています。

シンフォニー（山形県）

「女性消防団発祥の地　さかた」

山形県酒田市女性消防団　団員
備前　利恵

はじめまして。山形県酒田市女性消防団です。

酒田市は、アカデミー外国語映画賞を受賞した、映画「おくりびと」のロケ地として、昨今とくに有名ですので、ご存じの方も多いかと存じます。酒田市は、映画の中の映像のとおりに、雪を仰いだ神々しい鳥海山のふもと、ひろびろと広がる庄内平野、たえることなくとうとうと流れる母なる最上川と、日本の原風景そのままの、ほんとうに美しいところです。

この美しい街は、昭和51年大変な大火に見舞われました。市内中心地にある映画館から広がった火事は、不運にも当日の強風にあおられいっきに広がり、実に住宅1,774件を焼き、必死の消火活動もむなしく、あっというまに市内225,000㎡は焼け野原となりました。

酒田市消防団長は、そのころ団員になったばかりだったということでしたが、全消防団員が一晩中炎にむかって無我夢中で放水した様子を話してくださいました。川を背にして、ぎりぎりの状態でやっと火が消え、後で気づいたら前髪も、眉毛も、まつげも、みんな焼けて無くなっていたということでした。

この恐ろしい経験を教訓に、酒田市の消防団は、熱心に防災活動を行っています。酒田市女性消防団は、このような中で、平成19年に団員32名をもって悲願の結成となりました。まだ活動３年目の、できたてほやほやのひよっこ消防団です。できることを少しずつ手探りで増やしているところです。

少ない中ではありますが、活動の内容をご紹介します。

まず年明け一月の下旬に、酒田市庁舎前で、出初式に参加します。雪の降りしきる中の式は立っているだけでも大変な寒さですが、身が引き締まり、この一年も活動を頑張りたいと新たな決意がわいてきます。

また、この日、二名の女性消防団員がはしご乗りを披露します。日頃、男性に混じって練習を重ねたその成果を、新調して頂いたピンクのハッピをまとい、みごとに発揮します。激しい寒さと緊張感の中で繰り広げる男性顔負けの素晴らしい技に毎年たいへんな拍手がわきます。見守る私たちも誇らしい気持ちでいっぱいになります。

その他に、春と秋の火災予防週間には、地区の消防団員が運転する消防車で市内を回り、「火の用心」をよびかけます。市内の農村地区やお年寄りのお宅に伺い、火災報知器の取り付けのお願いをして歩くこともあります。各地区の防災訓練にも参加させていただきます。また、酒田市の消防演習や、操法大会では、受付や、司会、案内などのお手伝いをさせていただいています。操法大会の大変な迫力に魅了されて、昨年秋から、操法の練習も始めることになりました。いつかなるべく近い未来に、模範演技を披露することが目標です。

私たちは、実際の現場では消火活動をすることはありません。ですが、日頃からこうした訓練を経験することで、冷静な判断や落ち着いた行動を身につけていくことが、緊急の災害時に、役立つことがあるのではないかと考えています。

日頃、仕事をもち、家庭を切り盛りする主婦が多い我が団では、各活動に参加するだけが精一杯です。しかし、一日も早く、地域の人々に役立つ女性消防団になりたいという思いは強く、結成の翌年にはほとんどの団員が、仕事を休んで上級救命講習を受け、続けて応急手当普及員の講習を受けました。自分たちにできることはないかと、常に模索している人ばかりです。起きては欲しくない大災害ですが、そのような非常時に、私たち女性消防団が一番期待されることは、少しでも不安をやわらげるお手伝いをすること、行政との窓口になることだと思います。そのためにも日頃から地域の行事や訓練に顔をだし、ご近所の方々と声をかけあうことで、人を知り、地域を知っていくことが大切だと思っています。

最後になりましたが、酒田市沖39キロの沿岸に浮かぶ飛島には、日本で初めて誕生した女性消防団があり、今年100週年を迎えました。飛島の女性団員は、実際の火災の消火にもあたります。50から60代（！）の女性が、漁で男性が留守中の島を守ろうと、訓練を欠かさず、平成17年には、第17回女性消防操法大会にも出場を果たしています。私たちは、身近にたいへんなお手本があることを、幸せに思います。

まだまだ、思っているばかりで、活動のともなわない始まったばかりの消防団ですが、全国各地で活躍されている女性消防団の皆さんから学ばせていただきながら、団員仲良く、高い意識をもって一歩一歩進んで行きたいと考えています。

自衛消防隊
「消防分団として出動！！」

大阪府摂津市消防団　団長　前川　忠義

摂津市消防団では、平成22年１月１日から、機能別消防分団の運用を開始し、今回初めて、市内の事業所（芦森工業㈱、㈱カネカ、ダイキン工業㈱）の協力を得て、３事業所の自衛消防隊を機能別消防分団として運用することになりました。

機能別消防分団とは、特定の災害や時間帯を限定して出動する消防分団で、摂津市では29分団337人の基本消防団員が活動していますが、このうち約8割が被雇用者で、平日昼間の消防団の運用が課題となっていましたが、今回、新たに42名の機能別消防団員を加え、32分団379名の新体制を整え、今後、昼間の消防力の充実・強化に期待されます。

自衛消防隊の人員と企業が所有する消防ポンプ車をセットでそのまま市の消防分団として活用するケースは、全国的にも極めて珍しく、３社は、「自衛消防隊の強化にもなるし、なにより地域貢献につながり、今後は、より緊張感をもって地域防災に貢献したい。」と意気込んでいます。

機能別消防分団運用開始式

平成22年度　第14回消防互助年金海外視察の参加者募集
「北欧の大自然美と高度な文明にふれる旅」

財団法人　日本消防協会

年金共済部では、消防互助年金事業の一環として、消防互助年金加入資格者等とその家族を対象とした海外視察の参加者を募集いたします。

第14回となる今回の視察は、北欧を巡るものとなります。視察は参加者の皆様が気軽に安心してご参加いただけるように、次の点に配慮した内容となっております。

（1）日本消防協会の職員および添乗員が同行いたします。
（2）ポイントをしっかりおさえながらも、ゆとりをもった視察行程となっております。
（3）宿泊はすべて、４ツ星以上のホテルをご用意いたします。
（4）全行程において、行き届いたお食事をご提供いたします。
（5）細部にまでおける良心的なサービスをご提供いたします。

1　日　時
平成22年５月25日（火）
～　６月１日（火）

2　視察先および日程
デンマーク・ノルウェー・スウェーデン・フィンランド
６泊８日（詳細は日程表をご参照ください）

3　参加費用
お１人様　330，000円
費用には次の料金が含まれています。
（1）航空運賃（エコノミークラス）・空港税・燃油サーチャージ・団体旅行傷害保険等
（2）宿泊料・食事代等
※宿泊は原則２人１部屋となります。１人部屋を希望される場合は追加料金が必要となります。

4　募集人数
30名程度
※募集は、平成22年４月９日（金）迄ですが、定員となり次第締め切らせていただきます。

5　応募方法
下記連絡先まで電話またはＦＡＸにてご連絡ください。旅行業者より資料と申込書をお届けいたします。

（財）日本消防協会 年金共済部
ＴＥＬ　03－3503－3079
ＦＡＸ　03－3503－1480

「ノルウェーのソグネフィヨルド」
（提供　スカンジナビア観光局）

「スウェーデンのストックホルム」
（提供　スカンジナビア観光局）

第14回　消防互助年金海外視察日程表

○　視察国　デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド
○　「北欧の大自然美と高度な文明にふれる旅」

日数	月日（曜日）	都市名	現地時間	交通機関	摘　用	食事 朝	昼	夕
1	平成22年 5月25日 （火）	成田発 コペンハーゲン着	11：40 16：05 17：50	SK984 専用車	空路、コペンハーゲンへ ［所要時間：11時間25分／時差－7時間］ ホテルへ ホテルに到着 〔コペンハーゲン泊〕	機	機	機 ○
2	5月26日 （水）	コペンハーゲン コペンハーゲン発 ベルゲン着	09：00 16：05 17：25	専用車 SK2872 専用車	コペンハーゲン市内視察 視察後空港へ向う 空路、ベルゲンへ ［所要時間：1時間20分／時差なし］ 到着後、ホテルへ 〔ベルゲン泊〕	○	○	 ○
3	5月27日 （木）	ベルゲン発 ミュルダル フロム グドヴァンゲン ベルゲン着	08：00 18：00	専用車 列車 船 専用車	フィヨルド視察の最良基点ソグネフィヨルドへ ミュルダルより絶景をフロムへ フロムより船にてグドヴァンゲンへ グドヴァンゲンよりベルゲンへ 到着後、ホテルへ 〔ベルゲン泊〕	○	○	 ○
4	5月28日 （金）	 ベルゲン発 ストックホルム着	 12：35 13：55 17：00	 SK1482	午前中、ベルゲン市内視察 空路、ストックホルムへ ［所要時間：1時間20分／時差なし］ 着後、消防視察 ホテルに到着 オプショナル・ツアーを予定 〔ストックホルム泊〕	○	機	 ○
5	5月29日 （土）	 ストックホルム港発	09：00 19：30	専用車 大型船	午前中、ストックホルム市内視察 午後、視察、ショッピング 視察後、ギャラクシー号（海側のお部屋）にてトゥルクへ向う、船中にて夕食 〔船中泊〕	○	○	 ○
6	5月30日 （日）	 トゥルク港着 ナーンタリ ヘルシンキ	 07：00 17：00	 専用車	船中にて朝食 下船後、トゥルク市内視察ののち ナーンタリ市内視察、その後ヘルシンキへ ホテルに帰着 〔ヘルシンキ泊〕	○	○	 ○
7	5月31日 （月）	 ヘルシンキ発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発	09：30 12：50 13：30 15：45	専用車 SK717 SK983	空港へ 空路、コペンハーゲン経由成田へ ［所要時間：1時間40分／時差－1時間］ 空路、成田へ ［所要時間：10時間50分／時差＋7時間］ 〔機内泊〕	○	機	 機
8	6月1日 （火）	成田発	09：35		到着後、解散	機		

当日程は航空会社、現地の事情等で変更になる場合がありますので予めご諒承の程お願いします。
ＳＫ：スカンジナビア航空

小中学生への防災教育の推進
～防災教材「チャレンジ！防災48」の活用について～

総務省消防庁国民保護・防災部防災課　金子　洋

地域の安全・安心のためには、子どもの頃から防災の知識を身につけることが重要です。総務省消防庁では、平成21年度から、各市町村において、消防職団員等が指導者となって、自主防災組織、児童、生徒等の地域住民に対して、防災活動や消防についての知識・技術を広く伝え、将来の地域防災を担う人材を育成する取り組みとして「地域防災スクール」を推進しています。

この「地域防災スクール」をはじめ、広く防災教育の現場で活用していただくための教材「チャレンジ！防災48」を作成し、平成22年３月中旬に、全国の消防署、都道府県（教育委員会、防災担当）、市町村（教育委員会、防災担当）に配布しました。

1　教材の内容

＜写真＞バインダーとＤＶＤの写真

「チャレンジ！防災48」は、大きく２つの教材から構成されています。

ひとつは、指導者用教材として、Ａ４判250ページのバインダー（冊子）にまとめています。

災害時に子どもらが応急救護や初期消火、避難所運営の手伝いなどに進んで参加できるよう、雑誌やタオルで骨折部位を固定できる応急手当ての方法や、食器が割れて使えない場合に新聞紙とポリ袋で代用する方法など、48の実習項目を紹介しています。この中では、指導者向けに指導ポイント、時間軸に沿った実施内容、準備品リスト等を明記しています。

この他、児童や生徒が災害の怖さをイメージし、日ごろからの備えの大切さを実感できるよう、新潟県中越地震で起きた土砂崩れの瞬間や、阪神・淡路大震災時の消防団員による救助活動、豊橋市で発生した竜巻の映像など、約230種類の映像や写真を収録したＤＶＤも添付しています。

一部の映像を除き、いずれの教材も、総務省消防庁の「防災・危機管理e-カレッジ」（http://www.e-college.fdma.go.jp/ ）のホームページからダウンロードできますので、小中学校等の学校関係者やＮＰＯ、ボランティアをはじめ、防災教育に関心を持つ方々が自由に教材を活用することができます。

※「防災・危機管理e-カレッジ」は、総務省消防庁が運営しているサイトで、地域住民や消防職団員、地方公務員等の方々に、インターネット上で防災・危機管理に関する学びの場を提供しています。

2　活用場面

全国の小中学校の「特別活動（学級活動、学校行事など）」や「総合的な学習の時間」、放課後や週末等に実施する「放課後こども教室」、地域の防災訓練等の様々な機会が考えられます。

例えば、日頃の防災訓練や避難訓練を行う前に、地震や風水害による被害の恐ろしさをＤＶＤに収録した映像を利用して説明することで、より真剣味ある訓練を実現することが期待できます。

各消防署の地域防災の担当者におかれては、教材が手元に届きましたら、まずは、各市町村の教育委員会の担当者の方と、各市町村内の小中学校における年間の防災訓練のスケジュールや総合的な学習の時間、少年消防クラブや各種防災講習会などでの活用の場面についてご相談をしていただきたいと考えます。

また、地元消防団や市町村防災担当職員にも本教材が届いておりますので、あわせてご相談の上、本教材を活用した防災教育を行う機会の確保に向けて取り組んでいただきたいと考えます。

都道府県及び市町村の消防防災担当部局においては、教育委員会の学校安全主管課及び生涯学習・社会教育主管課等とご相談の上、県防災関連施設等での防災学習の場などでの活用についてご検討をいただきたいと考えています。

消防署や教育委員会に対して、小中学校等の学校関係者から本教材を使用したいなどの要望があれば、お手元の教材を自由に貸し出していただきご活用いただくか、教材の内容については、上記の「防災・危機管理e-カレッジ」（http://www.e-

college.fdma.go.jp/ ）のホームページからダウンロードして活用することができる旨お伝えいただければ幸いです。

なお、具体的に、消防職団員の方が本教材を使うにあたっては、はじめに自己紹介をしていただき、消防職団員が日頃どんなことをして、何にやりがいを感じているかお話ししていただくようお願いしたいと考えています。子どもたちが、将来、消防の仕事に興味を持ってもらえるよう魅力を語っていただければ幸いです。

地震や風水害の場面を収録したＤＶＤの映像・写真は、神戸市をはじめ被災自治体等にご協力をいただき入手したもので、実際の災害の恐ろしさがよくわかるものになっています。防災教育の場面に限らず、小中学校の理科・社会等の主要科目の時間にも教材として使うことができます。映像や写真をご提供いただいた団体等とは著作権についての協議も済ませておりますので、自主防災組織等への各種研修の機会などにおいても安心して活用していただくことができます。

3　教材の特徴

指導者用テキストには48の実習項目がありますが、すべての項目に取り組まなければならないわけではありません。会場が屋外かどうか、与えられた時間はどうかなど、学校側が希望する条件や自らが対応可能な条件などを踏まえ、項目を選択して利用することができます。

本教材は、実際に阪神・淡路大震災を経験した神戸市において利用されている教材をベースに、さらに風水害への対応などの内容を加え、全国的に活用していただけるものにしています。

指導のポイントの作成にあたっては、現役の中学校の先生にアドバイスをいただいており、例えば、室内でベンゼンを使用する場合には換気に気をつけることや、指導する際に、子どもたちの発達段階に応じて留意すべき事項なども加筆いたしました。

具体的な項目について説明しますと、例えば、「対決！バケツリレー」では、ただバケツリレーを行うのではなく、チーム対抗で行うことで、楽しく学習できます。一列リレーや千鳥リレーなどのバケツリレーの方法、ゴミ箱やレジ袋を使った方法なども学習することで、実際の災害時に役立つ防災知識が自然と身につきます。

4　今後の展開

総務省消防庁では、平成22年度予算案の中に、青少年防災指導者育成事業を盛り込み、防災教材「チャレンジ！防災48」を活用するなどして、小中学生等へ防災知識を伝える消防職団員や小中学校の教師等を指導者として育成することとしています。

本教材については、実際に活用された方からご意見をいただきながら、内容をより充実させていきたいと考えています。

多くの皆さんに利用していただくことを期待しています。

救急安心センターモデル事業の実施状況

総務省消防庁　救急企画室

1. はじめに

近年、救急出場件数が大幅に増加しています。増加の要因としては、少子高齢化社会の進展、核家族化の進行、住民意識の変化などが挙げられますが、これらの要因のほかに、救急要請をすべきか、病院へ行くべきか否かの判断に迷った場合に119番通報するケースも相当数にのぼると考えられます。

従来、一部の消防機関においては、診療可能な医療機関の情報提供や応急手当方法の指導が行われているところですが、これらの相談サービスに加えて、救急需要対策の一環として、医師や看護師と連携した医学的に質の高い救急相談体制を構築することが求められています。

このような救急相談体制の全国的な展開に向けて、消防庁においては、平成21年度に市民の安心・安全を担う消防機関と医療機関とが連携して実施する「救急安心センターモデル事業」（以下「モデル事業」という。）を愛知県、奈良県及び大阪市の３地域で実施しています。

以下、モデル事業の実施状況等を解説します。

2. 救急業務の現状

平成20年中における全国の救急出場件数は約510万件と、前年と比較して、約19万件減少していますが、平成16年から連続して500万件を超えています。平成10年における全国の救急出場件数は約370万件であり、この10年間で約38%も増加しています。救急出場件数の増加に伴い、現場到着時間（119番通報から現場に到着するまでに要した時間）、病院収容時間（119番通報から病院に収容するまでに要した時間）ともに遅延傾向にあり、平成20年中の現場到着時間の平均は7.7分（平成10年は6.0分）、病院収容時間の平均は35.0分（平成10年は26.7分）となっています。また、平成20年中の救急自動車による搬送人員数は約468万人であり、このうち入院加療を必要としない軽症傷病者の割合は50.9%となっています。

このように救急業務の現状を見てみますと、救急出場の件数が急増している一方で、救急搬送人員の約半数が軽症傷病者となっています。軽症傷病者の中には、タクシー代わりの利用や事前予約のある外来通院など、救急事案に該当しないものも含まれていると考えられますが、一方で、救急要請すべきか判断に迷う場合において、このような場合の相談先が整備されていないため、119番通報しているケースも少なからずあるものと考えられます。

3. モデル事業の実施概要

（１）救急安心センターの概要

モデル事業では、住民の安心・安全を担う消防機関と医療機関とが連携し、住民が救急自動車を呼ぶべきか否か迷う場合の不安に応える救急相談窓口（救急安心センター）を設置し、住民の救急相談に対応しています。

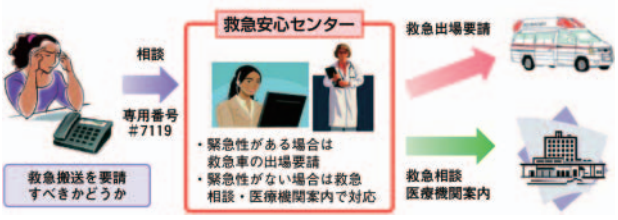
救急安心センターに寄せられる相談のうち緊急性がある場合には救急自動車の出場を要請し、緊急性がない場合には救急相談や医療機関案内で対応しています（図１参照）。

（２）設置場所

救急安心センターは、原則として、消防機関に設置することとしており、相談業務と各消防本部の指令センターの指令業務との連携を図ることとしています。大阪市においては、大阪市消防局の指令情報センター内に救急安心センターが設置されており、相談内容に緊急性がある場合には、直ちに救急自動車を出場させる体制が確保されています。

ただし、地域において既に医療相談事業や医療機関案内事業等を実施しており、これらの事業の実施場所を救急安心センターの設置場所とすることが

図１　救急安心センターイメージ図



効果的である場合においては、消防機関以外に設置することも認められています。

（３）相談体制

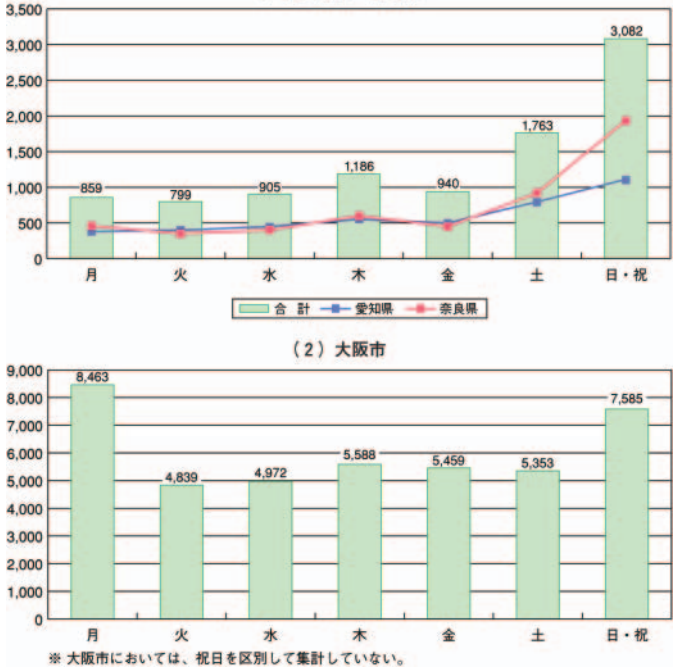
救急安心センターには、医師、看護師、相談員が配置され、医学的にも質の高い相談に応じることができるようにされています（救急安心センターに常駐する医師を確保することが困難である場合には、医師へ電話を転送できる体制をとることとしています）。

また、救急安心センターは、24時間365日体制で実施することとしており、常時、住民の救急相談に応じる体制が整えられています。

（４）電話番号

救急安心センターへの電話番号については、共通の短縮ダイヤル「#7119」となっています。モデル事業実施地域においては、固定電話からも携帯電話からも、#7119により救急安心センターに電話がつながり、救急相談を行うことができるようにされています。

グラフ１　曜日別の相談件数



※ 大阪市においては、祝日を区別して集計していない。

4. モデル事業の相談実績

平成21年10月１日から12月31日までの３か月間のモデル事業の相談実績は次のとおりです（以下の実績については、速報値であるため、今後、数字の異同があり得るものです）。

（１）相談件数

①　全相談件数

モデル事業実施団体の全相談件数は、愛知県が4,291件（１日当たり約47件）、奈良県が5,243件（１日当たり約57件）、大阪市が４万2,259件（１日当たり約459件）となっています。

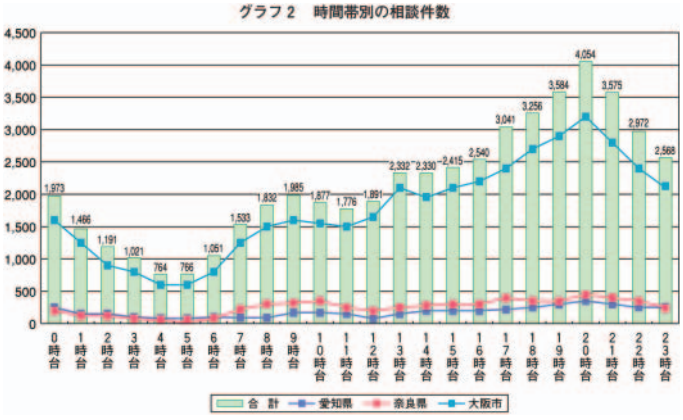
②　曜日別の相談件数

３団体全体の曜日別の相談件数については、愛知県及び奈良県では、日曜・祝日が特に多く、次に土曜日が多くなっています（グラフ１参照）。また、祝日を区別して集計していない大阪市では、月曜日が一番多く、次に日曜日が多くなっています。土曜・日曜・祝日は医療機関が休診となることが多いことから、これらの曜日の相談が多いものと考えられます。

③　時間帯別に見た相談件数

３団体全体の時間帯別の相談件数については、20時台をピークとして、17時台から23時台までが多くなっています（グラフ２参照）。医療機関の診療が終了する夜間帯の相談が多くなっているものと考えられます。

グラフ２　時間帯別の相談件数



（２）相談対象者・相談者の属性

①　性別

３団体全体の相談対象者の男女比は、男性が47.6％、女性が48.4％となっており、女性の方がやや多くなっています。団体別では、奈良県及び大阪市では女性の比率が高く、愛知県では男性の比率が高くなっています。

②　年齢構成

３団体全体の相談対象者の年齢構成は、０歳～４歳が28.9％、５

歳～９歳が18.0%となっており、相談対象者の多くが小児で占められています（グラフ３参照）。小児の救急相談事業については、いわゆる「#8000」が全国的に実施されており、救急安心センターの相談対象者と重複する部分が相当程度あることから、これらの事業との整理・連携について、このような相談の実態を踏まえて、今後検討する必要があると考えられます。

③　相談者

実際に救急安心センターに電話をした相談者の内訳は、３団体全体では、家族（配偶者、父・母、祖父母）が70.7%、本人が22.5%となっています（グラフ４参照）。全相談者のうち相談者が父・母のものが、愛知県では50.9%、奈良県では61.1%となっており、相談者の半数以上が父・母で占められています。相談対象者の約半数が小児で占められており、これらの小児の父母が相談しているものと考えられます。

（３）相談内容等

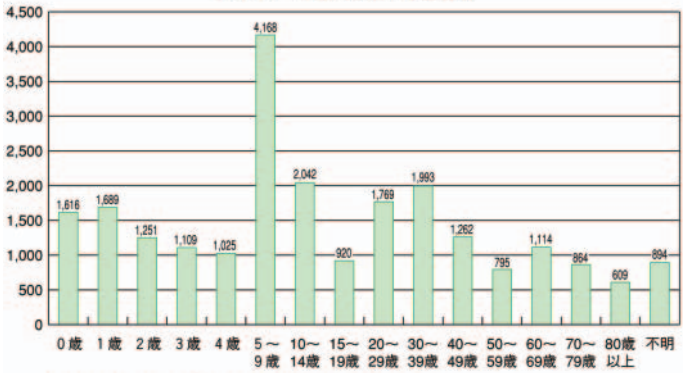
①　相談内容

相談内容の内訳は、愛知県では救急医療相談が75.8%、医療機関案内が3.9%、奈良県では救急医療相談が58.8%、医療機関案内が35.5%、大阪市では救急医療相談が31.3%、医療機関案内が58.1%となっています。

②119番への転送

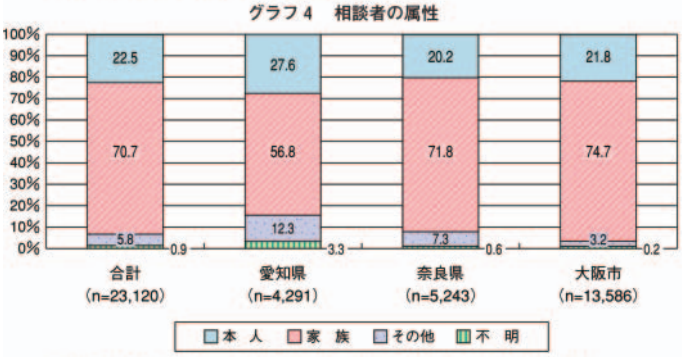
救急相談の結果、119番へ転送したもの及び119番へのかけ直しをすすめたものについては、愛知県では119番へのかけ直しをすすめたものが123件、奈良県では119番へのかけ直しをすすめたものが94件、消防へ転送し搬送を要請したもの12件、大阪市では救急出場したものが853件となっています。

グラフ３　相談対象者の年齢構成



※ 大阪市は、相談内容が医療相談のもののみを集計

グラフ４　相談者の属性



※ 愛知県及び奈良県は、「配偶者」「父／母」「祖父母」を家族として集計
※ 大阪市は、相談内容が医療相談のもののみ集計

5. 救急相談事業に対する財政措置

総務省では、医師や看護師と連携した医学的に質の高い救急相談事業を実施できるようにするため、市民からの救急相談に対応するための職員（再任用）の配置に必要な経費について、平成21年度から普通交付税の市町村消防費において措置しています（平成22年度の措置額は人口10万人の標準団体当たり7,536千円）。これを活用することにより、市町村が共同して高度な救急相談事業を実施することが可能となっているので、各市町村においては積極的な取組が期待されます。

6. 救急安心センターの全国的な展開に向けて

消防庁においては、平成21年度、「救急業務高度化推進検討会」の中に「救急指令・相談業務作業部会」（以下「作業部会」という。）を設置し、救急安心センターの全国的な展開に向け、次のような課題について検討を行っています。

・小児救急相談事業（#8000）等、他の相談事業との整理・連携
・医師・看護師の確保、専門性の高い症例への対応の観点から、広域的な運営の検討
・市民に覚えやすい電話番号の検討
・一般市民への普及啓発
・電話救急相談プロトコールの標準化
・家庭で使用できる救急相談マニュアル等の作成

これらの課題について、作業部会において、モデル事業における相談実績、個々の相談内容等を通じて整理するとともに、モデル事業の効果を分析・検証し、救急安心センターの全国的な整備を促進することとしています。

消防団活動への理解と協力の呼びかけ

総務省消防庁　防災課

消防団は消防本部や消防署と同じく、消防組織法に基づいて市町村に設置されている消防機関です。平成21年４月１日現在、全国で2,336団が設置されており、88万5,394人が消防団員として地域の安全を守るために活躍しています。

消防団は、それぞれの地域の住民等によって組織されていますが、消防団員の身分は、非常勤特別職の地方公務員です。消防団員は、それぞれの地域において、平時は生業を持ちながら、いざ火災などの災害が発生した場合には、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神を持って、いち早く現場へ駆けつけ、消火活動や警戒、救護などに活躍しています。

昨年７月に中国・九州北部地方を襲った豪雨災害では、各地において消防団員が、昼夜を問わず、冠水地域の警戒や避難者の誘導などの献身的な活動を行い、被害の軽減に大きく寄与しました。自分たちの町を災害から守る消防団には、地域住民から高い期待が寄せられています。

このように消防団は、地域の暮らしの安全を守る上において大変重要な役割を果たしていますが、近年の産業・就業構造の変化等に伴い、消防団員の被雇用者化・高齢化、消防団員数の減少など、様々な課題に直面しています。

消防庁としては、これらの諸課題に対処し、消防団の更なる充実強化を図るため、各種施策を実施しており、例えば、勤務時間中の消防団活動への便宜や従業員の入団促進など、事業所が消防団活動に協力することを社会貢献として賞揚する「消防団協力事業所表示制度」や、消防団員入団促進ポスター・パンフレット、ＰＲビデオの作成・配布や政府提供のテレビ番組等、各種広報媒体を通じたＰＲなどの様々な施策を推進しています。

消防団の活動は、災害時の消火活動、救助活動のほかにも、平常時の救命講習指導、住宅防火訪問など多岐にわたっています。近年は、女性消防団員が増加傾向にあり、高齢者宅の防火訪問、子どもたちへの防災教育、様々な広報活動への参加など、幅広く活動しています。全ての活動に参加できなくても、一人ひとりにできることがあるはずです。ぜひ、多くの皆様に消防団活動に対する理解を深めていただき、「街を守る。安心をつくる。」消防団活動に参加していただけることを期待しています。

消防団のホームページもご覧ください
http://www.fdma.go.jp/syobodan/

保育園児を対象に防火教室を開催する女性消防団員
（写真提供：北海道・遠軽地区広域組合消防本部）

山林火災の残火処理活動をする消防団員
（写真提供：山梨県・甲州市役所）

消防研究センター等の一般公開のお知らせ

総務省消防庁　消防大学校・消防研究センター

平成22年度の科学技術週間（４月12日（月）から18日（日））にあたり、消防大学校・消防研究センター、日本消防検定協会及び財団法人消防科学総合センターでは、一般の方々に敷地内の試験研究施設を公開するとともに、消防用機械器具・消防防災の科学技術に関する研究の展示、実演等を行います。

1. 日　時　平成22年４月16日（金）
午前10時から午後４時まで
入場無料

2. 場　所　消防大学校・消防研究センター
（調布市深大寺東町４－35－３）
日本消防検定協会　本所
（調布市深大寺東町４－35－16）
※（同一敷地内にあります。）

3. 公開内容（予定）

【消防大学校・消防研究センター】
－バイオディーゼルの燃焼実験、防火服の火災暴露試験、油火災・可燃性液体火災の消火実験、リアルタイム地震防災情報システムや消防防災用ロボットの実演、原因調査室の調査業務の展示等、研究・業務内容の紹介、機動鑑識車、消防車両の展示－

【日本消防検定協会】
－住宅用火災警報器の展示・火災検知実演、消火器の操作体験、エアゾール式簡易消火具による天ぷら鍋火災消火実演－

【財団法人消防科学総合センター】
－消防防災ＧＩＳ、消防防災博物館、防災・危機管理ｅ－カレッジ、消防ヒヤリハットデータベース、石油コンビナートの防災アセスメント、消防力適正配置調査等業務内容の紹介－

4. 交通機関

（１）ＪＲ中央線吉祥寺駅南口下車、「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行きバス（６番乗り場）で「消防大学前」下車
（２）ＪＲ中央線三鷹駅南口下車、「野ヶ谷」行きバス（８番乗り場）で「消防大学前」下車
（３）京王線仙川駅下車、「吉祥寺駅」「三鷹駅」行きバスで「団地西口」下車、徒歩５分
（４）京王線調布駅北口下車「杏林大学病院」行きバス（14番乗り場）で「東町３丁目」下車、徒歩５分

〈問い合わせ先〉
○消防研究センター　研究企画室
電話：0422（44）8331（代表）
ホームページ　http://www.fri.go.jp/
○日本消防検定協会　総務部庶務課
電話：0422（44）7471（代表）
ホームページ　http://www.jfeii.or.jp/
○財団法人消防科学総合センター総務課
電話：0422（49）1113（代表）
ホームページ　http://www.isad.or.jp/

消防防災用ロボットの実演

泡消火剤による小規模タンク火災の消火実験

林野火災の防止

総務省消防庁　特殊災害室

林野火災は、例年春先を中心に多く発生しています。

これは、春先に降雨量が少なく空気が乾燥し、強風が吹くなかで火入れが行われたり、土・日曜日や祝日に山菜採りや森林レクリエーションなどを楽しむ入山者が増加することなどが原因と考えられます。平成20年中では、３月に414件と最も多くの林野火災が発生しました（平成20年中の林野火災の出火件数は1,891件、死者は13人、焼損面積は839ha、損害額は６億609万円）。

また、出火原因は、「たき火」や「火入れ」の際に火気の取扱いが不注意だったり、「たばこ」の火の不始末によるものが多いのが特徴で、平成20年中は、この３つで出火原因の51.9%を占めています。

林野火災の消防活動は、消防水利の不足や道路状況が良くないなどの地理的、地形的条件から困難を伴う場合が多く、特に空気の乾燥や強風等の気象条件も加わると、火災が広範囲に広がる危険性があります。加えて、一度焼失した森林は、再生するまでに長い年月と多くの労力や経費を要するとともに、保水能力が低下し、台風や集中豪雨などの大雨に伴って土砂崩れなどの自然災害を誘発するおそれもあります。

失火による林野火災を未然に防ぐため、次のような点に注意しましょう。

・枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと
・火気を使用する場合は、気象状況、周囲の可燃物の状況に十分注意するとともに消火用の水等を必ず用意すること
・たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
・強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
・火入れを行う際、許可を必ず受けること
・たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと
・火遊びはしないこと

林野火災の多くは、皆さん一人ひとりの注意で防ぐことができます。貴重な森林資源、さらには人命や財産を火災から守るため、林野での火気の取扱いにはくれぐれも気をつけましょう。

全国山火事予防運動（平成22年３月１日～３月７日）

消防互助年金制度
発足25周年
キャンペーン

互助年金

消防互助年金で笑顔とゆとりの将来設計!

予定利率…高利回りの **1.25%**

半年払い30,000円の掛金25年加入で…
（月額5,000円）

例示 **65歳以降10年間**
毎月14,780円の受取

消防団職員ならどなたでも加入できます

特長

① 老後生活に向け、**計画的な財産形成が可能**です。
② 払込満了時には、**5種類の「年金受取」の他に、「一時金受取」が選択**できます。
③ 途中で脱退しても**積立金（脱退一時金）が受け取れます。**
④ 税制適格コースは**個人年金保険料控除**、自由選択コースは一般の**生命保険料控除**の対象となります。

新規加入者には抽選で
消防Tシャツを贈呈

キャンペーン期間

加入日
H21 10/1
H22 1/1
4/1
7/1

お問い合せ先
(財)日本消防協会 年金共済部 TEL 0120−658−494
市町村または消防本部の事務担当者まで TEL 03−3503−3079

消防団の広場　岡山県「地域と消防団」

和気町消防団
団長
坂本　延夫

和気町消防団は、１本部、８分団、団員700人で活動をしています。年間を通して様々な活動を行っていますが、その多くが地域の方に支えていただきながら活動しています。

その基盤になっているものは、消防団を構成している各分団の取り組みにあります。

そのひとつとして、分団にはいくつかの行政区があり、その行政区の地理や特色、水利状況等を把握するため、一年ごと水出訓練を行う場所を変更し、運営面で区長さんをはじめ区内の消防団ＯＢ方や住民の方にご理解とご協力をいただきながら、実施することができていることです。

そして、消防団員も地域の方に応えるべく、地域での諸行事に率先して参加すると同時に、全国的にも減少傾向にある団員の確保に向けて、小学校に出向き、団員が授業を行うなど与えていただいたものを地域へ、そして次世代へおくる「恩おくり」の消防団活動を展開しています。

今後、環境等の変化により、どのような災害が起こるかわかりませんが、災害に対し強固な団結で立ち向かっていけるよう、更に結束力を高め、団の活性化に務めていきたいと思っています。

地域の方の交通整理で訓練を行う消防団員

うちの名物団員

神奈川県

真鶴町消防団
団員
竹林　智大

私たちの住む真鶴町にドラマ西部警察で使用された大型高所放水車が（写真）が石原プロモーションから寄贈されることとなり、平成21年11月14日、石原軍団ご一行とともにその贈呈式が行われました。

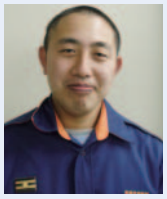
「結婚」というドラマのＰＲを兼ねた贈呈式では、間もなく結婚を迎えるわが町消防団のホープ竹林智大（ともひろ）さんが女優の上戸彩さんに、婚約者は徳重聡さんに手をひかれながら登場しました。

渡哲也さん、舘ひろしさんらが待ち受けるステージ上では、お二人の出会いや結婚に至るまでの経緯など質問に受け答えたり、渡さんから祝福の言葉をいただくなど、来場した方々から盛大な祝福を受けました。

緊張した面持ちの竹林さんでしたが、消防団員らしくはきはきと受け答えていました。

竹林さんには、消防団員の勧誘、町のＰＲ、そして観光の一助となればとご協力をいただきました。

群馬県



前橋市消防団第19分団４部
部長
権藤　泰澄（ごんどう　たいちょう）

権藤さんは部長として、消防団活動に日々、活躍されていますが、本業は寺の住職であり、幼稚園の教諭でもあります。

普段は園児に、趣味のトランペットを聞かせる優しい先生ですが、消防団活動では柔和な顔立ちからは想像もできないくらい熱い部長です。

園児や保護者に防火・防災思想の普及、啓発を図るなど、まさに地域の防災リーダーである権藤部長に期待しています。

福井県

勝山市消防団
部長
山内　加代子

部長として、平成３年に発足した女性消防団員24名をまとめている山内加代子さんを紹介します。

山内さんは若い頃、綱引きの選手として大活躍をしていて、所属していた大日レディースは県下でも強豪チームとてして毎回上位入賞を果たしていました。

現在は、日本綱引き連盟公認審判の資格を取り、県下の各綱引き大会で審判として活躍しています。

綱引きにより付いたメリハリのある行動や言動は女性消防団員をまとめるのに最適で、“チームワークを大切に!!”をモットーに女性消防団員全員が一丸となって、一年を通しての行事に取り組んでいます。

沖縄県

仲地雄二団長
宮平成雄班長
国吉慎司団員
親川和也団員

仲地雄二団長ほか３名は、航空会社関連の会社員です。久米島町の表玄関、久米島空港で、航空機離発着時のパイロットとの無線通信、離発着時の誘導、また荷物等の搭降載を行っています。また久米島町消防団員として訓練を重ね、久米島消防本部空港消防所と協力してパイロットの安全はもちろんすべての人達の安全を守っています。

「いちゃりばちょーでー」（袖振り合うも多生の縁）を合い言葉にして、島（地上）の安全・安心な街づくりと同時に空まで、守備範囲に取り込んで守り続けます。

平成21年度　全国統一防火標語

「消えるまで　ゆっくり火の元　にらめっ子」

4月の日本消防協会関係行事

4月16日（金）　第22回全国消防操法大会第１回運営委員会

編　集　後　記

花の便りが北上する季節となり、ようやく暖かくなり春らしくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

また、花粉症の季節でもありますが、花粉飛散数には昨年の夏の気象が影響を受けるらしく、昨年は梅雨が長引き、８月も日照不足だと飛散数も下回ると予測されていますが、２年ほど続いた翌年でもあることから、油断せずに予防対策には万全を期してください。

さて、２月10日には日本消防協会定例表彰式が開催されました。その表彰式の模様を掲載してあります、全国150団体、個人表彰10,560名の方々が受章されました。おめでとうございます。更なるご活躍をご期待いたします。

３月は卒業シーズン、別れの季節でもありますが、日本消防協会でも10名が研修を終了し、私も含め職場へ帰任することになります。ちょっぴり寂しい気がしますが、東京での生活といろんな方との出会いと経験を生かし、それぞれの地元での活躍をお祈りします。

編集担当もこの３月号を最後に交替となります。読者のみなさまご愛読ありがとうございました。今後とも「日本消防」よろしくお願いいたします。

（M・S）

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十三巻第三号
平成二十二年三月五日印刷
平成二十二年三月十日発行
編集人　岩田知也
発行所　(財)日本消防協会
東京都港区虎ノ門二―九―十六
電話　〇三(3503)一四八一(代)
印刷所
東京都千代田区外神田六―三―三
日本印刷株式会社
電話(3833)六九七一(代)

毎月一回十日発行
平成二十二年三月十日発行
日本消防
第六十三巻第三号

消防人の火災共済の補償が増額されました

「1000倍補償を1500倍補償にＵＰ」

B型火災共済　（加入口数は５口から25口まで）

10口の場合　掛金1000円で
火災共済金　100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金（全損で）20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円（500円単位）で加入できます。』

C型火災共済　『加入口数は、最高200口』

火災共済金　2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金（全損で）400万円を600万円に増額しました。
※　風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※　加入にあたり、組合員となっていただくために出資金が必要になります。

生活協同組合 全日本消防人共済会
事務局　(財)日本消防協会内　　支　部　都道府県消防協会内

消防互助年金

『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、（財）日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です
ホームページでも詳しく紹介しています

『互助マル君』

耳より情報
消防互助年金について、詳しくご理解いただくために、担当者が説明に伺います。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先
●各市町村の消防事務担当係
●都道府県消防協会
（日本消防協会ホームページ）

●(財)日本消防協会　年金共済部
●生活協同組合全日本消防人共済会
〒105-0001　東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館　TEL.(03)3503-1481～5
http://www.nissho.or.jp

R100